2016年度

ファカルティ・ディベロップメント活動報告

東京基督教大学

はじめに

「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」

コリント人への手紙第一 10章31節

2016年度のＦＤ活動としてまず挙げたいのは、「神の国に仕えるプロジェクト」と連動し、共愛学園前橋国際大学の大森昭生学長をお迎えして教員研修会を行ったことである。先進的な大学改革を推進してこられた大森学長から、「共愛学園前橋国際大学における教育質転換と大学改革」及び「共愛学園前橋国際大学の新たな取組〜学習成果の可視化による教育質保証に向けて〜」と二回の講演をしていただき、本学における大学改革に良き刺激と多くの示唆を与えられた。

また、三回のファカルティーフォーラムを開催し、教員相互の研鑽に努めた。第一回の紀要合評会は、紀要論文についての相互批評をさらに活性化させるため、扱う論文を一本のみに絞った。伊藤明生教授の調査報告「パピルス45番－最古の福音書集＋使徒の働き」に対して、小林高徳学長が新約学者として応答され、フロアーの議論も活発に行われた。第二回は、森田哲也助教が現在取り組んでおられる研究テーマとして「発展途上国の社会的企業における宗教性と組織文化」を発表され、国際キリスト教学からの新たな視点に啓発された。第三回は、本年度で3年間の取り組みの最終年度を迎えた、John Templeton Foundation 助成研究プロジェクトの学内での成果報告が、「学問と実践：震災後の日本における宗教的ミニストリーの理論と実践」として稲垣久和教授を中心に行われた。共立基督教研究所として多額の外部研究資金を受けて、3年に渡り学外の研究者をも招いて行われたことは、本学の研究活動として大きな成果であった。

本年度も新たに科研費を森田哲也助教が取得され、アフリカ研究という新たな研究領域の開拓に取り組まれることになった。

精神ケア学び会では「学生生活とアルバイト」をテーマに、近年必要に迫られてアルバイトに時間を割く学生が増えている現状について学び合った。

末筆ながら、本年度は本学で最初の博士号が岩田三枝子氏(本学准教授)と徐有珍氏（2017年度より本学助教に就任）に授与された記念すべき年でもあった。博士課程での研究者育成の充実と教員の研究活動の進展とが相俟って、東京基督教大学が研究においても神の栄光をさらに現していけるように励んでいきたい。

学部長（FD委員長）　大和　昌平

目　　次

2016年度ＦＤ活動一覧 …… 1

教員研修会（８月24日） …… 3
テーマ：学習成果の可視化による教育質保証に向けて
講　師：大森昭生（共愛学園前橋国際大学 学長）
「共愛学園前橋国際大学における教育質転換と大学改革」
「共愛学園前橋国際大学の新たな取組
～学習成果の可視化による教育質保証に向けて～」

第２回ファカルティーフォーラム（12月６日） …… 25
研究発表　「発展途上国の社会的企業における宗教性と組織文化」
発表者　森田哲也

第20回精神ケア学び会（３月３日） …… 29
「学生生活とアルバイト」

第３回ファカルティーフォーラム（３月14日） …… 33
John Templeton Foundation 助成研究プロジェクト成果報告
「学問と実践：震災後の日本における宗教的ミニストリーの理論と実践」

学生による授業評価アンケート（2016年度）実施記録 …… 43

付録
（案内ちらし）
第１回ファカルティーフォーラム（６月14日）
紀要合評会

2016年度　ＦＤ活動一覧

開催日	ＦＤ活動	講師・発題者	場　所	対　象	参加者数
2016年 ６月14日	第１回　ファカルティーフォーラム 紀要合評会		中教室５	全教員	11名
2016年 ８月24日	教員研修会 「学習成果の可視化による教育質保証に向けて」	大森昭生	FCCホール	全教職員	34名
2016年 12月６日	第２回　ファカルティーフォーラム 研究発表	森田哲也	FCCホール	全教員	18名
2017年 ３月３日	第20回　精神ケア学び会 「学生生活とアルバイト」	杉谷乃百合 篠原　基章 辻中　保美	バルナバホール	全教職員	27名
2017年 ３月14日	第３回　ファカルティーフォーラム John Templeton Foundation 助成 研究プロジェクト成果報告	研究プロジェクトメンバー	FCCホール	全教員	17名

2016 年度 東京基督教大学 教員研修会

学習成果の可視化による教育質保証に向けて

2016 年 8 月 24 日 (水) 9:00－12:00
国際宣教センター館

◆◆プログラム◆◆

＜第 1 部＞ 9:00-9:30

聖書朗読と開会祈祷

Session 1: 「グローバルな文脈での外国語による神学教育」

David Sytsma 先生（IAPCHE 8th International Conference 報告）

篠原 基章先生 （Younger Leaders Gathering 2016 報告）

Session 2: 2015 年度 教育研究優秀教員表彰

＜第 2 部＞ 9:30-12:00

講師：大森昭生先生（共愛学園前橋国際大学 学長）

Session 1：共愛学園前橋国際大学における教育質転換と大学改革

（休憩）

Session 2：共愛学園前橋国際大学の新たな取組

ー学習成果の可視化による教育質保証に向けてー

Session 3：参加者×講師トークセッション（自由なディスカッションによる質疑応答）

大森 昭生先生 共愛学園前橋国際大学 学長（国際社会学部 教授）

～講師略歴～

1968 年、宮城県仙台市生まれ。

東北学院大学文学部英文学科、同大学院博士課程にて研究。

1996 年に学校法人共愛学園に入職、共愛学園前橋国際大学助教授等を経て、現職。

専門はアメリカ文学で特にヘミングウェイを研究。地域における各種公的委員を務めるほか、各地での講演多数。

3児を育てており、二人目・三人目出産に際し育児休業を取得。

1

共愛学園前橋国際大学における教育質転換と大学改革

地学／教職／学職一体の教育改革

～KYOAI GLOCAL PROJECTを中心に～

共愛学園前橋国際大学
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY

2

本学概要

3

「共愛＝共生」の理念～128周年を迎えた学園

共愛学園の沿革

- １８８８年（明治２１年）
  - 前橋英和女学校開校
- １８８９年
  - 上毛共愛女学校と改称
- １９３９年
  - 共愛幼児園開設
- １９４７年
  - 中学・高等学校の併設
- １９８８年
  - 共愛学園女子短期大学開学
- １９９９年
  - 共愛学園前橋国際大学開学
- ２００９年
  - 共愛学園木瀬保育園開設（前橋市より移管）
- 2011年
  - 共愛学園学童クラブ開設
- 2016年
  - 共愛学園小学校開校
  - 共愛学園こども園開設

共愛学園に連なる学校

4

本学の概要

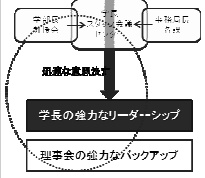
名　称 英語名称	・共愛学園前橋国際大学 ・KYOAI GAKUEN UNIVERSITY
学　部	・国際社会学部　国際社会学科 ・英語コース、国際コース、情報・経営コース 心理・人間文化コース、児童教育コース
定　員	・入学定員225名　３年次編入学定員5名 ・収容定員910名
理　念	・共愛＝共生の精神
目　的	・国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成
モットー	・学生中心主義 ・地域との共生 ・ちょっと大変だけど実力がつく大学です

本学の特長

先進的な教職一体ガバナンス

スタッフ会議
- 理事長、学長、全教職員が参加
- 人学の方向性確定する義務要素 教育課程

各種大学運営センター
- 教員も職員も全員が　スタッフとして所属し、大体的に大学を運営
- 属性に関わらず 横を互連



学長の強力なリーダーシップ

理事会の強力なバックアップ

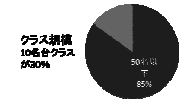
学生中心主義
学生は大学づくりのパートナー

大学運営への学生参画
- ITサポート
- 高等アカデミックチューター
- TA（ティーチングアシスタント）
- 図書館ピアチューター
- 留学生チューター
- 障がい学生支援チューター
- 学生広報スタッフ/オープンキャンパス運営
- 学生カフェ運営
- インターンシップ関学金ノワークスタディ関学金
- 教育経営管プロジェクト（2014）：学生に予算を預け、全て学生が担当。

学生の意見を反映させる取組
- スピークアップ提案システム
- 学生アンケート
- 授業アンケート
- 4号館施設プロジェクト（2011）
- 国際交流会館施設プロジェクト（2015）

学生による取組
- 学内フリーペーパー
- エコ・キーパー
- ネット情報発信
- キャリア形成
- 新入生歓迎・留学生歓迎行事
- 各種多様な学内イベント
  ※一部は学生プロジェクト関学金で支援

コンパクトユニバーシティ 教育質転換



地学一体による人材育成

地域貢献

↓

地域共生・連携

↓

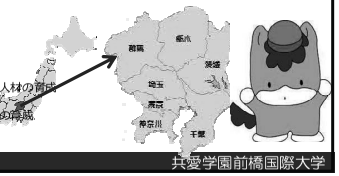
地学一体

- 学生の85%が群馬県出身
- 卒業生の70%が県内就職
- 様々な主体（行政・学校・企業・NPO）との協働学修

GGJ：地域連携によるグローカルリーダー育成
COC：地学一体化モデル

群馬県

- 東京まで1時間／草津・伊香保温泉／尾瀬・浅間山・御巣鷹山・赤城山
- 群馬県自動車関連構成比全国２位→（県）東アジアへの販路拡大戦略→アジア最適人材の育成
- 群馬県ブランドランキング44位
  →富岡製糸世界遺産登録→台湾・タイの外国人観光客増加→国際的地位でなる地域の環境
- 群馬県外国籍住民比率全国6位
  →くらしのグローバル化→多文化共生と外国籍住民のアイデンティティ確立



外部評価と採択事業

大学基準協会による認証評価（06・10年）
- 認証＝群馬県内初　　基準協会による認証＝北関東初
- 2回目の認証＝全国初

2012年度「グローバル人材育成推進事業(GGJ)」採択
- 次世代の地域社会を牽引するグローカルリーダーの育成

2014年度「地（知）の拠点整備事業（COC）」採択
- 地学一体化加速プロジェクト：持続的「地（知）の拠点」創成へ

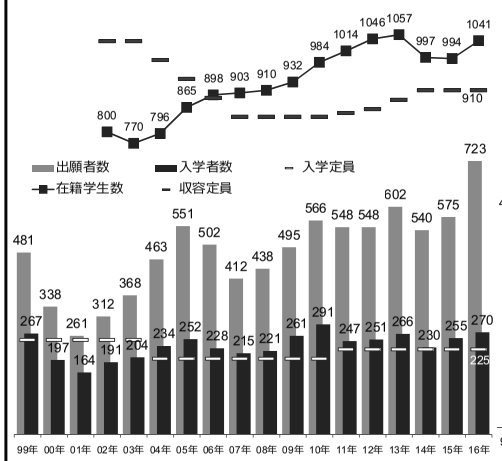
2014年度「大学教育再生加速プログラム（AP）」採択
- テーマⅠ・Ⅱ複合型　：　学修質保証システムの構築

2015年度　「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」採択
- 持続的地方創生共同体形成プロジェクト：県域総ぐるみ若者定着計画

私立大学総合改革支援事業等

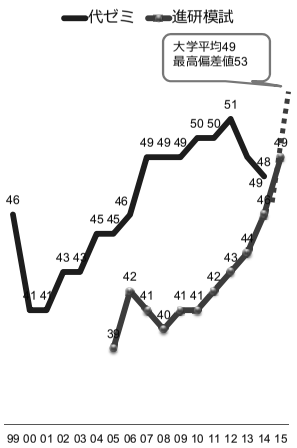
2012年度私立大学教育研究活性化設備整備事業：区分B＝全国8私立大学のみ
2013年度私立大学総合改革支援事業3タイプ採択＝全国22私立大学のみ
2014年度私立大学総合改革支援事業3タイプ採択
2015年度私立大学総合改革支援事業3タイプ採択

在籍学生数・出願者数・入学者数推移



※出願者・入学者・入学定員には3年次編入［5名定員］含まず
※2016年在籍学生数は4月1日時点での暫定値

偏差値の推移（参考）



最近の外部からの注目

視察の受入

- 江戸川大学様（2016年8月）
- 静岡産業大学様（2016年８月）
- 医療保健経営大学様（2016年7月）
- 追手門学院大学様（2016年7月）
- 弘前学院大学様（2016年6月）
- 金沢工業大学様（2016年6月）
- 成城大学様（2016年6月）
- 群馬大学様（2016年5月）
- 埼玉東萌短期大学様（2016年3月）
- 日本文理大学様（2016年3月）
- 聖学院大学様（2016年3月）
- 神戸学院大学様（2016年2月）
- 熊本大学様（2016年2月）
- 創価大学様（2016年2月）
- 沖縄キリスト教大学様(2015年11月)
- 名桜大学様(2015年11月)
- 兵庫大学様(2015年11月)
- 尚絅学院大学様(2015年9月)
- 愛知県私立大学協会事務局長会様(2015年9月)
- 麗澤大学様(2015年7月)
- 北陸大学様（2015年7月）
- 静岡福祉大学様（2015年7月）
- 東京テクニカルカレッジ様（2015年7月）
- 多摩大学様（2015年7月）
- 富山短期大学様（2015年6月）
- 秋草学園短期大学様（2015年5月
- 京都学園大学様（2015年4月）
- 関西大学様（2015年3月）
- 明海大学様（2015年2月）
- 十文字学園女子大学様（2015年2月）
- 成蹊大学様（2015年2月）
- 東京基督教大学様（2015年2月）
- 共栄大学様（2014年12月）
- 摂南大学様（2014年10月）
- 東京医療学院大学様（2014年9月）
- 東北文教大学様（2014年8月）
- 埼玉工業大学様（2014年6月）
- 福岡工業大学様（2014年6月）
- 東北文教大学様（2014 年6月）
- 兵庫大学様（2014年5月）
- 学校法人龍澤学園様（2014年5月）
- 東北大学図書館様（2014年5月）
- 青山学院大学様（2013年12月）
- 共栄大学様（2013年11月）
- 敬愛大学様（2013年11月）
- 東北学院大学様（2013年11月）
- 共栄大学様（2013年7月）
- 山口県立大学様（2013年7月）
- 日本女子大学様（2013年7月）
- 神奈川大学様（2013年5月）
- 京都橘大学様（2013年5月）
- 高崎健康福祉大学様（2013年１月）
- 梅光学院大学様（2013年１月）
- 中村学園大学様（2012年７月）
- 武蔵野美術大学様（2012年６月）
- 日本大学様（2012年6月）
- 杏林大学様（2012年５月）
- 東海大学様（2012年4月）

最近の外部からの注目

セミナー等における事例報告

- 実践女子大学SDFD研修会（2016年7月）
- 進研アドセミナーin仙台（2016年7月）
- 岡山県立大学SDFD研修会（2016年6月）
- 日本観光ホスピタリティ学会総会（2016年6月）
- New Education Expo（東京）（2016年6月）
- 私立大学連盟東部地区金曜会例会（2016年5月）
- 大学改革セミナー（2016年4月）
- 兵庫大学教育改革セミナー（2016年3月）
- 神戸ポートアイランド4大学合同FDSD講演会（2016年3月）
- 仙台白百合女子大学教職員研修（2016年3月）
- 追手門学院大学講演会（2016年1月）
- 北陸学院大学ＦＤ研修（2015年11月）
- 大学マネジメント改革総合大会（2015年11月）
- GGJ西日本第1ブロック共同シンポジウム（2015年11月）
- 私立大学協会事務局長研修（2015年10月）
- 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部ヒアリング（2015年9月）
- 大阪青山大学ＦＤ・ＳＤ研修（2015年9月）
- 私立大学連盟学長会議（2015年7月）
- GGJ東日本第2ブロック会議（2015年6月）
- New Education Expo （2015年6月）
- 大学改革セミナー（2015年4月）
- GO Global Japan Expo（2014年12月）
- 霞が関ナレッジスクエア　イノベーションプログラム（2014年12月）
- 大学・高校実践ソリューションセミナー（2014年11月）
- 日本能率協会大学マネジメント改革総合大会（2014年11月）
- 群馬県私立中学高等学校英語科教員研修（2014年9月）
- 川村学園女子大学FD研修会（2014年10月）
- JTB営業課長戦略研修（教育版）（2014年9月）
- IDE大学セミナー（於・広島大学）（2014年8月）
- 大阪女学院大学理事等研修（2014年8月）
- New Education Expo（東京）（2014年6月）
- ABEST21-QMCセミナー（2014年4月）
- 大学改革セミナー（2014年4月）
- 高等教育情報センターセミナー（2014年3月）
- GO Global Japan Expo（2013年12月）
- 大学・高校実践ソリューションセミナー（2013年11月）
- 梅光学院大学研修会（2013年9月）
- 群馬大学社会情報学部FD勉強会（2013年9月）
- 敬愛大学FD研修会（2013年8月）
- 恵泉女学園大学FD研修会（2013年7月）
- New Education Expo（東京・大阪）（2013年6月）
- 社会連携教育研究会（座長:白井放送大学学園理事長）（2013年5月）
- 大学改革セミナー（2013年4月）
- 青森大学全教職員対象研修（2012年12月）

メディア等での紹介

PRESIDENT
（2012.10.15号）
就職に強い力をつけている大学として紹介

THE21
（2012.5月号）
大学冬の時代に教育と運営に成功している大学として紹介

TAITEN
（2013.2月号）
教育の結果学生募集が順調な大学の事例として紹介

サンデー毎日
（2013.10月27日号）
受験のカリスマ（予備校関係者）アンケートで「受験生・保護者に薦めたい大学」として紹介

THE21
（2013.4-5月号）
受験生や保護者が本当に選ぶべき大学（＝お買い得大学）として紹介

Global化に挑戦する大学
（㈱アネスタ）
グローバル人材育成推進事業採択大学特集

グローバルな時代の大学選び　（ベネッセ）
グローバル人材育成に取り組む大学として紹介

ガイドライン
（2013.7・8号）
（河合塾）
学生の主体的な学びを支援する取組をしている大学として紹介

大学ランキング 2015
（週刊朝日MOOK）
学長からの評価ランキング
全国43位

Between
（2014.8 - 9月号）
（ベネッセ）
地方大学のグローバル人材育成

サンデー毎日
（2015.1月合併号）グローバル時代を生き抜く大学はココだ！
文科省支援事業ランキング
全国私学9位

教員養成専門誌
シナプス（2015.2）
＜特集＞新しい学びを取り入れた養成・研修の実際
アクティブラーニングを通した教員養成の取組が紹介されている。

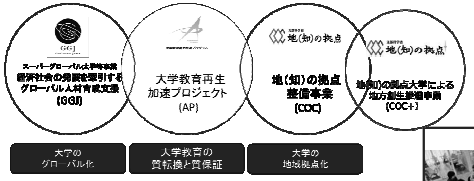
カレッジマネジメント
（2015.3・4号）リクルート
＜特集＞地域で選ばれる大学
地域において高い評価を得ている大学として全国3大学のうちの一つとして紹介

Between
（2015.4 - 5月号）
ベネッセ
＜特集＞アクティブラーニングの実質化；学生の成長を可視化する取組を紹介

週刊ダイヤモンド（2015.11.7号）
最強大学特集
グローバル教育力**全国２８位**

サンデー毎日
（2016年1月合併号）
グローバル時代を先導する改革に積極的な大学はここ
全国私学５位

KYOAI GLOCAL PROJECT



KYOAI
GLOCAL PROJECT

各コースの特徴性と3GJ・COCの実践が戦略的に連動し、質の高い学修プログラムを提供

スーパーグローバル大学等事業　国際社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（GGJ）
（全国4大学・国内1大学）
＜次世代の地域社会を牽引するグローカルリーダーの育成＞
- Global Career Training研修
- 地域連携グローバル人材育成推進協議会
- Global Project Work
- 海外留学50%

国際社会学部
資源コース
国際コース
情報・経営コース
心理・人間文化コース
児童教育コース

文部科学省　地（知）の拠点
地（知）の拠点整備事業（COC）
（全国77大学・国内大学）
＜地方・中小企業・地域社会の活性化＞
- 地域産業人材育成
- 地域産業人材に求められる志向の検討
- 地域・産業・人材育成プロジェクト：持続的地（知）の拠点形成へ
- リカレント教育
- 地域内新卒利用率の100%目指す
- 地域産業人材に求められる志向の検討
- 地域・産業・人材育成プロジェクト：持続的地（知）の拠点形成へ

GO GLOBAL JAPAN

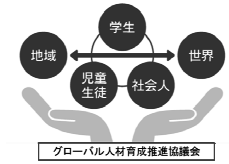
スーパーグローバル大学等事業
経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援

育成する人材像

次世代の地域社会を牽引するグローカルリーダー

■グローカルリーダー

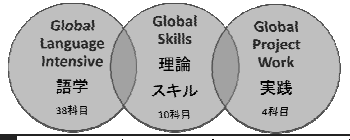
地域に根差しながら、地域と世界を繋ぎ、 海外の人材、物流、活力を地域に取り込み、地域の振興を先導する人材



グローバル人材育成推進協議会

サンデン株式会社 | 伊勢崎市教育委員会 | 早稲田大学社会連携研究所 | 共愛学園前橋国際大学（事務局）

Global Career Training 副専攻



Global Language Intensive	English for Global Issues I/II Internet English Advanced Listening I/II Advanced Writing I/II 中国語a/b/c/d/e/f 米海外研修 I / II Speaking of Japan I/II Business English I/II/III/IV Advanced Reading I/II Academic Writing I/II 加商外研修 実践中国語 I / II / III Professional Presentation I/II 実践Debate I/II Advanced Speaking I/II One on One English 豪海外研修 I / II
Global Skills	Multi-Cultural Understanding Global Leadership I/ II Multi-Cultural Communication Global Business Training I/II Team Based Learning I/II Problem Based Training I/II
Global Project Work	Global Project Work I /II/III/IV

地域連携で取り組むグローカル人材育成

One on One English

海外との1対1英語学修（正課）

Global Skills 科目群

英語のみのAL・地域社会人も参加

海外研修サポートインターン

中学生の海外研修を事前指導から引率

児童向けグローバルワークショップ

グローバルをテーマに小学生のWSを企画運営

ミッションコンプリート研修

外国人観光客にアンケートを取る学生

アウェイで、自分たちだけでビジネスミッションをこなせ！

アジア異文化研修

海外ボランティアや現地大学生との交流

Global Education Online

海外の大学生と合同ゼミ

前橋×ブルガリア　コネクション

ブルガリア大使と前橋市長が本学に植樹。ブルガリアの大学と交換留学始動

海外フィールドワーク

通年授業で海外事情を研究、現地調査を実施

基盤となる取り組み

【GGJ以前の取り組み】

•単位制度の実質化
- 積極的なアクティブラーニング（以下AL）
  - AL を受講する学生の割合：93%
  - 学生１人当たりAL 科目受講数：10 科目
- 適正授業規模による少人数教育
- 社会人基礎力伸長調査
- ユビキタス・キャンパス構築
- AL専用設計された新学舎の完成
- GPAの導入

•語学教育の充実
- 学期毎にプレイスメントテストの実施
- 英語ｸﾗｽの習熟度別・少人数クラス編成
- E-LearningのSelf Study制度
- 「中国語インテンシブ」の設置
- 明治大学との合同1対1英語コミュニケーション学修実証実験参画

•入試制度
- 実用英語検定を基準に採用
- 帰国子女入試を実施

＋

さらなる取り組み

単位制度の一層の実質化
- AL・SL・PBLの質保証
  - 効果検証の開始
  - 地域産業界と協働する成果指標の抽出
  - ポートフォリオと卒業生調査によるエビデンス
- シラバスの充実：授業外学修時間・主体的学修に係る記載
  - 2014年度より施行導入・2015年度より本格導入
- 厳格な成績評価・ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ制の導入
  - 2015年度より導入

語学教育の一層の充実
- 英語のみ授業の開設・拡充
- Academic Writing学修

入試制度の見直し

外部試験	<推薦入試> 推薦資格	<一般入試> 英語科目満点換算
実用英検	準2級	準1級
GTEC for STUDENTS	500以上	620以上
GTEC CBT	720以上	920以上
TOEIC	400以上	600以上
TOEFL iBT	40点以上	64以上

国際交流を促進する取り組み　学生の約50%が在学中に海外経験

留学セミナー

入学前留学ガイダンス
経験学生がおすすめ

留学・海外経験を先輩が後輩に伝えるワークショップ

学生による学生のための留学説明会（学生自主企画）

グローバルビジネスセミナー

サンデン海外法人社長の英語による講演

アメリカ大使館職員の英語による講演

Gunma Innovation Meeting in Univ.
～世界と地域を結ぶグローカルマインド～
JIN田中社長ら前橋発の社長が集まり、300人強の学生に失敗恐れず前に踏み出すことの大切さを講演

語学コンテスト

English Speech Contestには、多くの学生が参加。他にVocabulary Contest、Writing Contest、English Karaoke Contestなど多数開催

過去にはルース米大使（当時）も来学し、学生と交流

国際交流を促進する取組 【海外大学との交流】

協定締結

- GGJ前：西北大学（CHN）
- 2013年度：ヴェリコ・タルノヴォ大学（BGR）
- 2013年度：ミズーリ州立大学（USA）
- 2014年度：ディミトリエ・カンテミル基督教大学（ROU）
- 2014年度；南オーストラリア教育庁（AUS）
- 2014年度：バリア・ブンタウ大学（VNM）

ＭＯＵ締結

- GGJ前:リンフィールド大学（USA）
- GGJ前:マッコリー大学（AUS）
- GGJ前:ワイカト大学（NZL）
- GGJ前:リムリック大学（IRL）
- 2013年度:上海大学（CHN）
- 2013年度:ブリティッシュコロンビア大学（CAN）
- 2013年度:ボンド大学（AUS）
- 2013年度:ランガラ大学（CAN）
- 2013年度:タマサート大学（THA）
- 2013年度:サンカルロス大学(PHI)
- 2014年度：上海交通大学（CHI）
- 2014年度：醒吾科技大学（TWN）
- 2015年度：東呉大学（TWN）
- 2015年度：長栄大学（TWN）

ミズーリ州立大学

ヴェリコタルノヴォ大学

南オーストラリア教育庁

ブリティッシュコロンビア大学

バリア・ブンタウ大学

醒吾科技大学

様々な海外プログラム

西北大学 交換留学	上海研修	カナダ研修	オーストラリア 研修
アメリカ中期・ 短期留学	ニュージーランド 留学	アイルランド 研修	カナダ短期研修
韓国研修	イギリス研修	海外研修ｻﾎﾟｰﾄｲﾝﾀｰﾝ （アメリカ）	アジア異文化研修 （タイ・台湾）
ﾐｯｼｮﾝｺﾝﾌﾟﾘｰﾄ 研修（タイ）	東欧文化研修 （ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ・ﾙｰﾏﾆｱ）	海外ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ研修 （オーストラリア）	海外ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ （韓国・フィリピン・台湾）

GGJ 中間評価結果（2015年3月）

（総括評価）S 優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。

「次世代の地域社会を牽引するグローカルリーダー」育成という目的に向けて着実な取組が見られる。地元企業・自治体と密接に連携しながら人材の育成に努めるとともに、様々なプログラムを準備し、学生の背中を押し動機を高めて海外に送り出すことで、更にやる気を引き出し、その成果として英語力の向上が見られる。県内の学生を引き受け、実力を育み県内に返すという役割も明確であり、卒業生が地域の企業、公共団体、学校等で活躍することで、地域の国際化が図られるであろうことが期待き、いわゆる地域・小規模大学の一つの成功モデルとして高く評価できる。

大学独自の指標として「グローカルポイント」を設定し、大学全体での教育成果を向上させており、今後、個々の学生の成長を確認できるよう、学修成果の可視化を推進すると同時に、ＧＰＡの低い学生に対する指導等にも力を入れようとしている。

Learning Commonsを中心とするアクティブ・ラーニングのための校舎の建設等を通じて大学の学修環境が再編され、ガラス張りの建物の中で互いに学び合う場が築かれており、十分に活用されている。学生が大学の変貌を実感し満足度も高く、各種プログラムに参加後、学修へのモチベーションが向上している。また、社会人に開放するために、午後6時以降にGlobal Skillsを開講するなど、地域との結び付きも強い。

更に、地域の中学生を海外に派遣する際のプログラム作成、付き添い等を行うインターンシップが、学生の体験的な教育実習にもなっており、国際化と同時に教職等職業選択への強い動機付けになっている。

タイプB（特色型）31校のうち、S評価は2校でした。（全体42大学中S評価は5校）

独立行政法人日本学術振興会　スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援サイト
http://www.jsps.go.jp/j-gjinzai/chukan_hyoka_kekka.html

学生のGGJへの思い＿中間評価Sと知って
（ある2015年3月卒業生の卒業式前のFBの書き込みより）

・・・そして前国（共愛学園前橋国際大学）のＳ評価には超納得。

このプログラムに採択されてからグローバル事務局（グローバル人材育成推進本部事務局）ができ、海外研修の種類(ex.サポートインターン･ミッションコンプリート)が増え、英語の授業も増え、と、**学生が実感出来る形で大学が明らかに良い方向に変わって**いってて、4年間面白かった。

実際、学校が「変わります」と言ってもそれは一部分の人しか享受出来なかったり、大人の事情が変わるだけの事が多いように思っていたから、**学校ってこんなにも変わっていくんだ、と思えるようになった。・・・それをこうして4年間の中で見られたことは本当に「ラッキー」だった。**

・・・更にCOCに採択されたそうなので、まだまだ変わっていくのだろうしそれを享受出来るの、まだ卒業してないのに既に羨ましい。

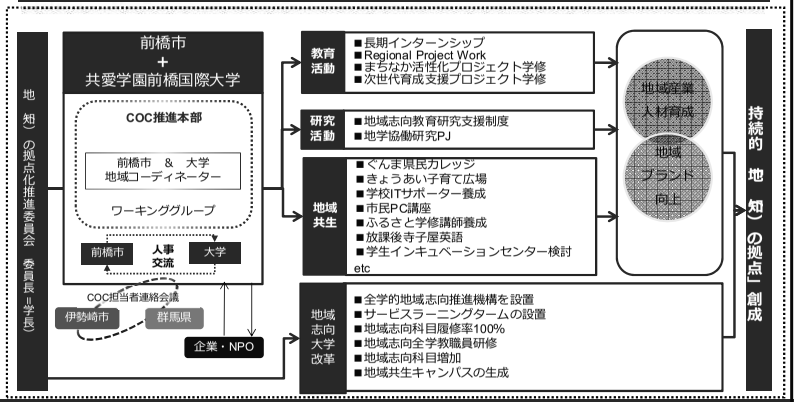
文科省「地(知)の拠点整備事業(COC)」

地(知)の拠点

2013年度　342大学申請→52件採択　2014年度　246大学申請→25件採択

- 本学は2014年度採択

地学一体化加速プロジェクト：持続的「地（知）の拠点」創成へ



長期インターンシップ　RPW（共愛COCOの取組）

ハウスメーカーに勤務

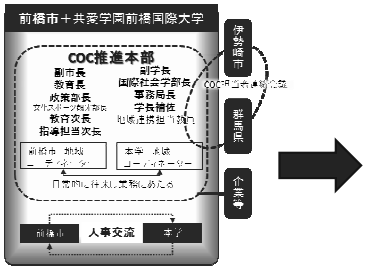
児童文化センターに勤務

共愛COCOの活動から派生した「共愛Farmプロジェクト」

前橋市役所政策推進課に勤務

長期インターン１：https://youtu.be/tS7xR-JjXmg
長期インターン２：https://youtu.be/9Yb8pxL5uns
長期インターン３：https://youtu.be/TuNu7U5ymgA
RPW（共愛COCO）：https://youtu.be/cxdU_PLiT_4

地学一体で取り組む地域人材育成



主な具体的取組例

教育活動

- ■サービスラーニングタームの設置
  - □長期インターンシップ創設
  - □RPW(Regional Project Work)創設
- ■共愛コア科目「地域理解科目群」の履修必修化
- ■学校フィールド学修（既存事業・前橋市協働）
- ■日本語教室サポーター派遣（既存事業・伊勢崎市連携）
- ■外国語・ITのサポーター派遣プログラム（前橋市・伊勢崎市連携）
- ■前橋学講座の単位化（前橋公民館協働）
- ■Mキッズサミットの単位化（前橋市協働・NPO教育支援協会連携）
- ■やる気の木プロジェクトの単位化（前橋市協働）
- ■困難を抱える生徒の学修機会創生プロジェクト（前橋市協働・NPO教育支援協会連携）
- ■企業人とのProject Based Learning（前橋商工会議所連携）
- ■環境ネットワークキャンパスの単位化（サンデン環境みらい財団・早稲田大・群馬大・高経大連携）

研究活動

- ■地域志向教育研究支援制度創設
- ■歴史遺産活用による前橋市のブランド創出に係る施策の検討（既存事業・前橋市協働）
- ■ICT 活用による地域力向上研究（既存事業・前橋市協働）
- ■近代産業文化研究並びにふるさと学修プログラム開発（伊勢崎市連携）
- ■地域ブランド発信のための英語・日本語教育研究（伊勢崎市連携）
- ■高大接続キャリア形成プログラム実証研究（群馬県連携）
- ■地域産業人材に求められる素養の検討とその涵養のための学修プログラム開発（前橋市商工会議所連携）

地域共生（社会貢献）活動

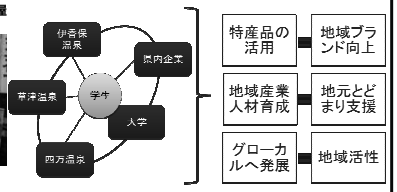
- ■市民のためのPC講座（既存事業・前橋市協働）
- ■きょうあい子育てひろば（既存事業・前橋市協働）
- ■群馬県民カレッジ連携講座（既存事業・群馬県連携）
- ■学校ITサポーター養成事業（企業・前橋市連携）
- ■ふるさと学修講師養成事業（伊勢崎市連携）
- ■群馬のいいとこ伝えたい・文化と産業の国際発信事業（群馬県連携）
- ■放課後寺子屋英語（NPO教育支援協会連携）
- ■まちなかキャンパス（既存事業・前橋商工会議所連携）
- ■まえばし経営者塾（前橋商工会議所連携）
- ■前橋合同文化祭（既存事業・前橋JC連携）
- ■ラジオ放送（既存事業・前工大・まえばしFM連携）
- ■学生インキュベーションセンター検討（群馬県・前橋商工会議所連携）

参考資料 25

学生がつなぐ地域

上州三名湯初のコラボ

大学は美味しいフェア@新宿高島屋



特産品の活用	■	地域ブランド向上
地域産業人材育成	■	地元とどまり支援
グローカルへ発展	■	地域活性

川場村←学生→清月堂

前橋・伊勢崎の小中学校にはすべて寄贈、学生が訪問して学校単位の大会も開催

国語教育ゼミ×美術教育ゼミ×産学連携ゼミ
＋
企業・行政

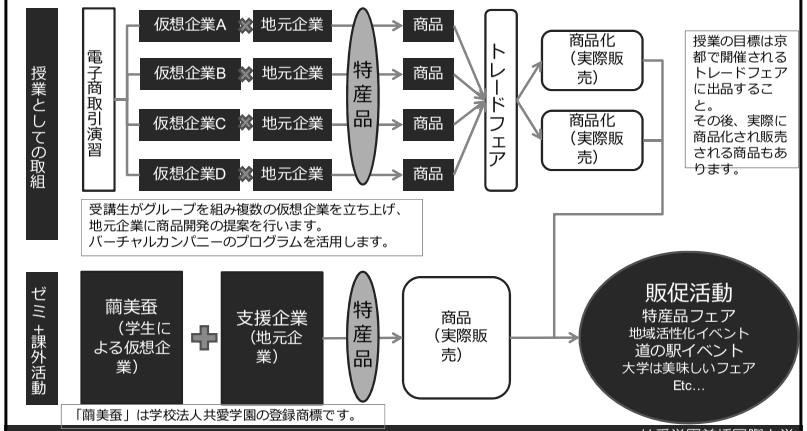
参考資料 26

大学は美味しいフェア2016@新宿高島屋
NHK・TBSラジオ・TBS「Nスタ」にて
本学が取り上げられる

27

学生による商品開発のプロセス

■「電子商取引演習」（1・2年生対象）という授業の中で特産品を活用した商品開発を行うプロセスと、仮想企業「繭美蚕（まゆみさん）」という学生団体（中心となるゼミ＋有志）が行うプロセスとがあります。
■「繭美蚕」では、授業で商品開発を経験し、3・4年生になっても活動を継続したい学生が所属し、授業で商品化された商品の販売の継続や独自の商品開発を行います。



参考資料 28

NIKKEI TRENDY NET 日経トレンディネット

「じぇじぇじぇ」に続け！
料理本やラジオ体操でも方言がトレンド！

2013年10月24日

年配者の方言から若者の新しい方言までを網羅した「ぐんま方言かるた」

日本の伝統的な遊びである「かるた」。その親しみやすさから「歌かるた」「いろはかるた」などさまざまな種類があるが、その中でも方言を使用した「方言かるた」は全国に90種類ほど存在するという。

「郷土かるた」としては、群馬県の出来事、人、郷土愛を詠う『上毛かるた』が有名だが、その一方で全国共通語に近い群馬言語は、方言として意識されづらく、群馬の「方言かるた」は存在しなかった。

2012年12月。地域文化、地域教育への貢献を学ぶゼミの一環として、共愛学園前橋国際大学の学生たちが「ぐんま方言かるた」を作成。販売を開始した。

初版の3000個は、2～3カ月で完売。第2版の3000個も、そろそろ完売間近。現在、第3版を計画中だという。わずか１年弱で6000個の販売数をあげた理由としては、群馬県では元々「上毛かるた」が地域文化として親しまれていたこと。そして「ぐんま方言かるた」の中で、年配者が使用する方言から若者が使用する比較的新しい方言まで網羅したことも大きい。

県内の伊勢崎市、前橋市の小学校、また大間々町の高齢者教室などで利用されているほか、県外の群馬県出身者からも問い合わせが多いという。

取り札には、素朴で温かな県民性と方言の響きによく合う「切り絵」を採用

若い世代へ方言を伝えていきたい、という教授、学生の思いから制作された「ぐんま方言かるた」

共愛学園前橋国際大学の学生とエフエム群馬アナウンサー（写真左から）大崎 修さん、望間 妙子さん、羽鳥 武夫さん

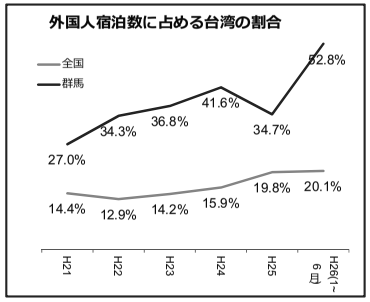
グローカル化

参考資料 29

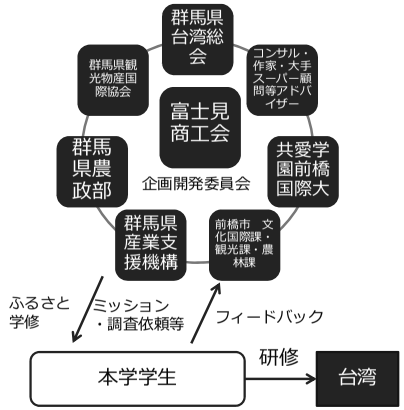
前橋市富士見商工会の事例 （旧富士見村・赤城山麓地域）

小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業（中小企業庁）

台湾と群馬で敬愛される偉人の絆を活かした観光客誘致と食事・土産品の開発



台湾・富士見ゆかりの偉人
- 羽鳥重郎（富士見出身）
  台湾風土病撲滅に構成のあった医師
- 羽鳥又男（富士見出身）： 台南市長（S17）
- 周再賜（台湾出身）；共愛学園校長（戦前・中・後）



グローカル化

参考資料 30

世界遺産 富岡製糸場と絹産業遺産群に係る活動

富岡製糸場の英語版パンフレットを本学教員が監修

富岡製糸場絵手紙かるたを本学学生が英語化（PJ進行中）

伊勢崎市中学生海外研修サポートインターン
ふるさと学修で伊勢崎銘仙や田島弥平旧邸を学び、アメリカ・スプリングフィールド市で発表

シルクカントリーin富岡
本学学生がブース出展

富岡製糸場伝道師協会が例年学園祭でブース出展

世界遺産登録に、本学関係者が貢献

グローカル化

31

前橋×ヴェリコタルノボ（ブルガリア） コネクション

ヴェリコタルノボ市長同席のもと協定に調印

共愛学園前橋国際大学 ⇔ ヴェリコ・タルノボ大学

前橋市 ⇔ ヴェリコタルノボ市

大使、市長、学生らが植樹

ヴェリコタルノボ市出身琴欧洲イベント

琴欧洲講演会

大使講演会

まえばし初代佐渡が嶽部屋ちゃんこ

前橋副市長と琴欧洲のちゃんこ試食

参考資料 32

地域共生の取組

地域共生研究センターの開設

連携協定等

- 笂井小学校と共愛学園前橋国際大学の地域連携協議会に関する覚書（2007年）
- 前橋市教育委員会と共愛学園前橋国際大学の教育研究に関する協定（2008年）
- 伊勢崎教育委員会と共愛学園前橋国際大学との伊勢崎市立学校の教育活動への支援に関する覚書（2008年）
- ぐんま地域・大学連携協議会（2009年）
- 一般財団法人サンデン環境みらい財団と共愛学園前橋国際大学との連携・協力に関する基本協定書（2009年）
- 有坂中央学園中央情報経理専門学校と共愛学園前橋国際大学との教育研究連携・交流に関する覚書（2009年）
- 前橋工科大学と共愛学園前橋国際大学との大学教育研究連携に関する協定（2012年）
- コンソーシアム「グローバル人材育成推進協議会」（2013年）
- 前橋市と共愛学園前橋国際大学の包括連携協定（2013年・前橋市としては初の大学との連携）
- 前橋商工会議所と共愛学園前橋国際大学との「地域人材育成及び地域文化発展のための連携に関する協定書」（2015年）
- 前橋市富士見商工会と共愛学園前橋国際大学との連携協力に関する協定書（2015年）

公開講座・地域の方々の受け入れ・施設の開放等

- 公開講座の開講
- 文科省認定免許法公開講座の開設
- 免許状更新講習の開設
- 「きょうあい子育て広場」の開設
- KYOAI COMMONS/図書館の開放・施設の貸し出し
- 厚生労働省・群馬県委託「離職者のための委託訓練講座」の開設
- 文科省委託免許状更新講習試行プログラム（予備講習）の開設
- 各種生涯学習講座の開設
- 社会人特別入試・授業料減免・科目履修制度

参考資料 33

共愛学園前橋国際大学×前橋商工会議所 地域産業人材育成共同プロジェクト

地(知)の拠点

COC推進本部
前橋市
＋
共愛学園
前橋国際大学

地域人材育成及び地域文化発展のための連携に関する協定

地域産業人材育成共同プロジェクト

- 地域産業人材に必要とされる人材要件を定義する共同研究を展開
- 上記により導かれた人材要件を育成するカリキュラムを検討
- 上記を踏まえて、新たな学科等の共同設置の可能性を検討
- 前橋市・群馬県の若者が、市内・県内に留まって学び、就職できる仕組みを検討
- 地域文化発展のための教育研究の相互協力、及び学術交流を検討
- 大学及び会議所相互の発展、地域社会の発展に寄与する取組

前橋商工会議所

共愛学園前橋国際大学

地域産業人材育成共同プロジェクト委員会
会頭→共同代表←学長
(両組織よりメンバーを選出)

統括
助言

報告

地域産業人材育成共同プロジェクトワーキンググループWG
リーダー：副学長
(テーマに応じたメンバーを適宜配置)

- 地域産業人材要件定義
- 地域産業人材育成カリキュラム検討
- 地域産業人材育成学科可能性検討
- 若者定着(進学・就職)仕組検討
- 地域活性化企業活性化

事務局：共愛学園前橋国際大学COC事務局×前橋商工会議所地域政策部

※2015年度～2017年度までを当初のプロジェクト期間とし、期間終了時にプロジェクトの成果や進行状況を精査し、その後の展開について再考する。

参考資料 34

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

持続的地方創生共同体形成プログラム：若者定着県域総ぐるみ計画

COC＋大学：共愛学園前橋国際大学

事業協働機関

参加 大学 ：高崎商科大学、上武大学、明治学院大学

参加自治体：群馬県、前橋市、高崎市、伊勢崎市、富岡市

参加企業等：一般社団法人群馬県商工会議所連合会、群馬県中小企業同友会、前橋商工会議所、㈱群馬銀行、しののめ信用金庫、㈱上毛新聞社、㈱ワークエントリー、サンデンホールディングス㈱、㈱ジェイアイエヌ、相模屋食料㈱、財団法人サンデン環境みらい財団、NPO法人教育支援協会北関東、NPO法人いせさきNPO協議会社会貢献ネット

協力７大学：群馬大学、群馬県立女子大学、群馬県立県民健康科学大学、前橋工科大学、高崎健康福祉大学、東洋大学・板倉キャンパス、群馬医療福祉大学

Gターン倶楽部参加83大学：首都圏67大学、関西圏４大学、県内12大学

参考資料 35

地方創生を推進する群馬県と本学におけるCOC＋事業の位置づけ

共愛学園前橋国際大学

全学的教育改革

地域社会の諸課題に対処することのできる人材を養成
(学則第3 条第3 項)
地域志向大学改革と地（知）の拠点化＝COC
大学の国際化と地域グローカル人材育成＝GGJ
教育質転換・質保証と高大接続＝AP
学長のリーダーシップと教職一体ガバナンス

生涯学び続ける自律的学修者を育成
地域諸課題に対処できるグローカルリーダーを育成
在籍学生85%が群馬県出身・就職者66%が群馬県内

群馬県

「群馬の限りない可能性」を大きくはばたかせ、群馬の未来を創生する
(県総合計画←一体化→地方版総合戦略)
基本目標１群馬で暮らし始めたくなる
基本目標２群馬に住み続けたくなる
基本目標３群馬で家族を増やしたくなる

群馬の未来創生本部設置
未来創生室（企画部企画課内）設置
こども未来局（健康福祉部内）設置
女性・若者就職支援室（産業経済部労働政策課内）設置

課題

本学の取組をより広く地域に波及させることができておらず、地（知）の拠点大学として、若者の定着を中心とする地方創生に寄与する役割が十分に果たせていない。

課題

2004年の203万5千人をピークに人口減少、2040年には163万人と推計。1980年からの30年で、若年層の流出が拡大。特に進学・就職時の若者に転出が多く、Uターン者が減少している。

中期計画に明記し、大学運営の最重要課題として地方創生拠点大学へと向かう本学の柱とする。

COC＋

持続的地方創生共同体形成プログラム：若者定着県域総ぐるみ計画

① 県域総ぐるみ体制の構築 → ② 地域人材育成 → ③ 雇用創出と実効性のある若者定着支援

地方版総合戦略ではCOC＋の取組を下記項目の柱として位置付ける。

基本目標１
○県内大学を活用した人材の育成
・県内学生の定着・産業人材育成

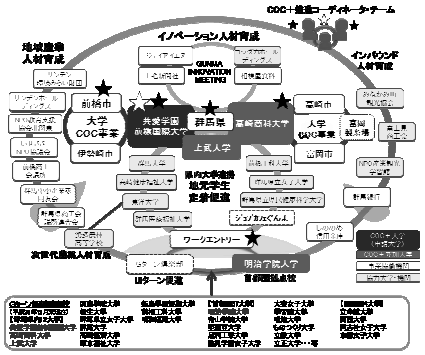
基本目標２
○経済・雇用戦略の推進
・雇用の場の確保・国際戦略推進
○本県産業の競争力強化
・ものづくり・商業・サービス・次世代産業振興による雇用の創出
・国内外からの観光誘客・農業振興

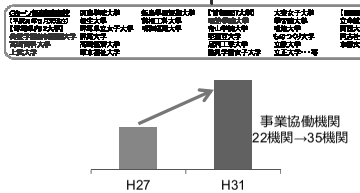
若者の定着→群馬の未来創生（地方創生）

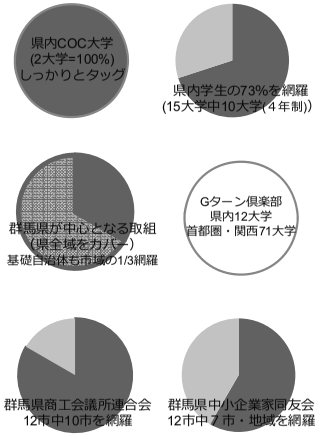
参考資料 36

産・官・学・金・言・住を網羅した県域総ぐるみ体制の構築

C３ＰＧ：Consortium for Center of Community Plus in Gunma







参考資料

C3PG（Consortium for Center of Community）発足式

事業協働機関代表者集合

群馬テレビのニュース

上毛新聞での告知

地域人材育成①―社会連携実践的人材育成プログラム―

群馬版総合戦略に併せた５つの人材育成PRG

- （基本目標１）インターンシップを一層推進し、**産業界が必要とする人材の育成**を目指す。
- （基本目標２）ものづくり産業、商業・サービス産業の振興、次世代産業の創出により、雇用の維持・創出等を目指す。
- （基本目標２）**国内外からの観光誘客**の促進、**農業の振興**、「林業県ぐんま」の実現を目指す。
- （基本目標２）国際戦略を推進し、**海外でのビジネス展開や外国人観光誘客**の促進、農畜産物の販路拡大を目指す。

参加校・協力校の学生も参加（県域総ぐるみ人材育成）
Gターン（倶楽部大学の学生も参加）（群馬の魅力再発見）

地域産業人材育成PRG

- ■大学×産業界で地域人材要件抽出
- ↓
- ■企業人＋大学生協働PBLプログラム
- ↓
- ■大学生のみならず企業人も地域産業人材へ

インバウンド人材育成PRG

- ■共愛学園前橋国際大学×高崎商科大学
- ↓
- ■グローバル人材育成PRG ×世界遺産富岡製糸場でのおもてなし実習
- ↓
- ■実践的インバウンド人材育成

次世代農業人材育成PRG

- ■勢多農林高等学校×東洋大学板倉キャンパス×共愛学園前橋国際大学
- ■専門力＋経営力＋ジェネリックスキルを涵養

様々なインターンシップPRG

- ■各大学既存インターンシップの拡充
- ■Gターンシップ事業
  群馬県×群馬大学・共愛学園前橋国際大学等＝群馬インターンシップ協議会
- ■実践的インターンシップ
  個別企業において就業を念頭においた実践的プログラム
- ■取材インターンシップ
  学生による学生のための企業情報収集と共有
- ■長期インターンシップ
  半年間の地域留学（共愛学園前橋国際大学）

イノベーション人材育成PRG

田中仁財団（JINS社長田中氏設立）Presents
Gunma Innovation School（学生版）

各務茂夫先生
東京大学産学連携本部イノベーション推進部長・教授

各務洋子先生
駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部長・教授

を中心とした豪華な講師陣による実践学修

寄付講座

- ■群馬県寄付講座「群馬を知る」「環境政策」＋α
- ■地域企業連携寄付講座「企業人オムニバス講座」
- ■地元銀行寄付講座「群馬の経済を知る（仮）」
- ■イノベーション人材育成PRG

地域人材育成②―地域人材育成カリキュラムモデルの構築―

Regional Career Training 副専攻

地域力（1単位） × 自分力（6単位） × 実践力（6単位） ＝ 地域人材

3年
- 地域志向①
- キャリアPlan①
- 実践PRG①

2年
- 地域志向②
- キャリアPlan②
- 実践PRG②

1年
- キャリアPlan③
- 実践PRG③

地域産業人材
インバウンド人材
イノベーション人材

地元産業界
商工会議所
中小企業家同友会
ジョブカフェぐんま
etc

- ■地域志向科目、COC事業展開科目、人材育成プログラム、寄付講座を体系的にカリキュラム化
- ■地元産業界に普及させ、修了証をマッチングに活用
- ■カリキュラム・モデルとして参加校・協力校と共有

参考資料

雇用創出と若者定着支援

高大接続

共愛学園前橋国際大学は、県教委「高大連携協議会」に参画すると共に、県と協働して「高大連携コラボゼミ」による高校生キャリア形成支援を、高崎商科大学は37高校と高大連携「Haul-Aプロジェクト」を展開しており、県内進学者を向上させるために、県内高大接続を推進。

雇用創出

- 地方公共団体による雇用創出施策の展開
  - •起業支援　企業誘致　成長産業支援　次世代産業支援
- 地元学生採用枠の創出
- 実践的インターンシップの開発
- 大学による企業支援
  - •C3GP雇用促進委員会統括のもと、技術開発支援、特産品商品開発、生産性向上支援等、参加大学・協力大学の地財・ノウハウによる企業支援を展開

若者定着支援

産業界×学生・大学　コミュニケーション創出

- ■産業界×学生　**合同企業説明会の拡充**：これまで大学連携で実施してきた学内企業説明会を拡充
- ■産業界×学生　**取材インターンシップ**：県内・首都圏学生がチームで県内企業を取材。取材内容を学生間で共有。
- ■産業界×学生　**Gターンシップ**：群馬県と群馬大学・共愛学園前橋国際大学等が協議会を設置。県内企業へのインターンシップを促進。首都圏学生へも呼びかけ。
- ■産業界×大学　**企業×大学交流・説明会**：企業と大学が直接交流し、業務内容や教育内容について理解を深める取組を商工会議所連合会や中小企業家同友会の各地域支部で展開。

Uターン支援

- □**Gターン倶楽部の展開と首都圏拠点の設置**
  - □明治学院大学を拠点に、Gターン倶楽部首都圏大学の群馬出身学生Uターン就職活動や群馬県企業との交流の場を形成。
  - □明治学院大学が主導して首都圏大学の群馬出身学生ネットワークの構築
  - □入試・インターン・就職等のステップにおける「Uターンマインドセット」をフォローアップ調査
- □**明治学院大学を中心とするGターン倶楽部学生の人材育成PRG参加**→群馬を再認識・群馬への愛着の再喚起
- □**群馬県外就職者ネットワークの構築**→県内大学卒業県外就職者のネットワーク化と情報提供
- □**国内留学制度の検討**→一度は東京に出てみたい→東京から見る群馬の魅力再発見
  →東京で学びながら、一時群馬に戻って活動してみる→群馬の課題・魅力の再認識

参考資料 41

「大学教育再生加速プログラム」

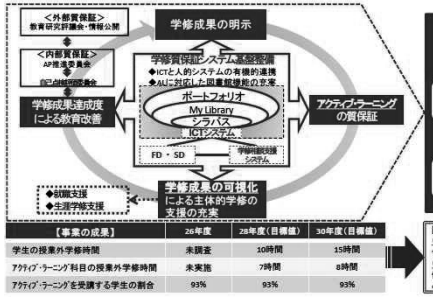
（ACCELERATION PROGRAM FOR UNIVERSITY EDUCATION REBUILDING：AP）

全国254大学から250件の申請→46大学が採択（本学はテーマⅠ・Ⅱ複合型）

■ 教育の国際標準化のための学修質保証システムを構築し、主体的学修者の育成とエビデンスに基づく検証・教育改善を実行する。
■ シラバス・My Library・ポートフォリオを連携させたICTシステムと、図書館員を中心とした学修相談支援システムを有機的に活用できる学修環境を整備し、正課・準正課における学修の充実を促進する。
■ アクティブ・ラーニング（AL）の質保証の研究を行い、学修成果の達成度を高めるALの実践を促進する。
■ 独自に開発する学修成果指標・ポートフォリオ・ステークホルダー調査等により多元的な学習成果の可視化を進め、教育プログラムの改善を図るとともに主体的学修者育成のための支援を充実させる。

本学の教育方針（本事業の基盤）

■建学の精神（学則第1条）：「共愛＝共生の精神」
■教育の目的（学則第3条）：「国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材を養成すること」
■教育研究計画：「グローバル化する地域の振興を担う人材の育成」「グローバル人材育成の推進」
■アクティブラーニング（AL）の取り組み：専任教員全員が実施、全授業の75%がAL



教育の国際標準化のための質保証
主体的学修者の育成
＋
エビデンスに基づく検証・教育改善

□ 特色1
■ 教学マネジメントと図書館の連携強化
◇ 図書館が学修に必須のプラットフォーム機能を担う
◇ 図書館を中心とする授業・授業外学修支援の充実
◇ 学術情報リテラシー教育の充実

□ 特色2
■ ALの質保証
◇ ALの指標の開発
◇ ALの授業方法の改善による授業の質と密度の向上
◇ 授業満足度の向上による授業外学修時間の増加

□ 特色3
■ 学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実
◇ ポートフォリオの自動多言語化
◇ 地域・海外での学修活動・就職活動支援
◇ 留学生支援
◇ 学生の主体的学修改善

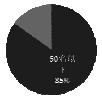
【事業の成果】	26年度	28年度（目標値）	30年度（目標値）
学生の授業外学修時間	未調査	10時間	15時間
アクティブ・ラーニング科目の授業外学修時間	未実施	7時間	8時間
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	93%	93%	93%

【期待される効果】
（大学改革加速）ALの質保証および学修到達度の多元的な可視化により、学生が主体的に学修を改善できる。
（大学全体影響）エビデンスに基づく教育改善を行うことにより主体的学修者を効果的に育成でき、単位制度の実質化を進めることで教育の国際通用性が高まる。

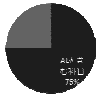
共愛学園前橋国際大学

アクティブラーニング（AL）とその環境

クラス規模
10名台クラスが30%
50名以下クラスが85%

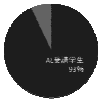


教育質転換
75%がアクティブラーニング



教育質転換
100%の専任教員がアクティブラーニング実践

卒業までに93%の学生がALを受講（ゼミ等除く）



アクティブラーニングのために設計されたKYOAI COMMONS

Seminar Studio

Creative Studio

ICT Area

i-Reading Area

Study Area

International Area

Group Work Area

Staff Counter

Active Library

Active Library

ユビキタスキャンパス

全普通教室AL仕様

GW Area活用授業

GW Areaで自主協働学習

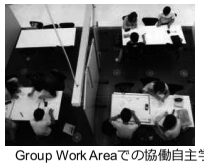
自主プレゼン練習

授業におけるGW

共愛学園前橋国際大学

日々のALとその環境

Group Work Areaでの授業



Group Work Areaでの協働自主学修

KYOAI Plazaでの自主プレゼン練習

International AreaでEnglish Only

Learning Studioを自主的に使ってサークル活動

Group Work Areaでイベント企画

通常授業でのGroup Work

Group Work Areaで課題に取組む

International Areaで電子黒板模擬授業

共愛学園前橋国際大学

参考資料 44

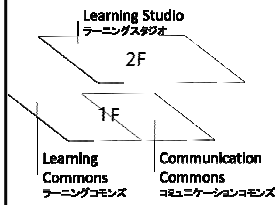
共愛学園前橋国際大学

KYOAI　COMMONS

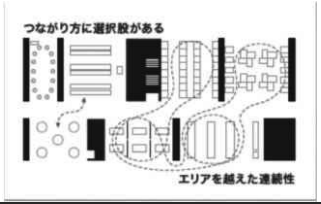
共愛・共生の理念と社会で生きる力を身につける学びと集いの「場」

- 「つながる」から「つなげる」へ
  - 前に踏み出し
  - チームで協働し
  - 創造する

「つながる」なりたち



「つなげる」しくみ



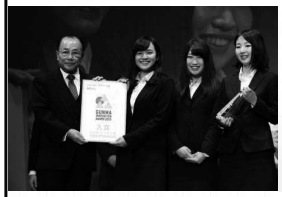
卒業生のグローカル

地元企業の海外プロジェクト室

JAL空港サービス部門NO.1
ザスパ草津のホーム戦には必ず帰群

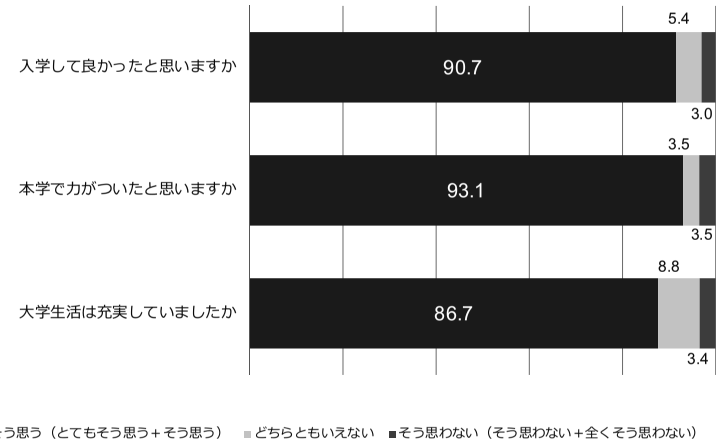
卒業生のグローカル

GUNMA INNOVATION AWARD　ビジネスプラン部門大学生の部2年連続優勝

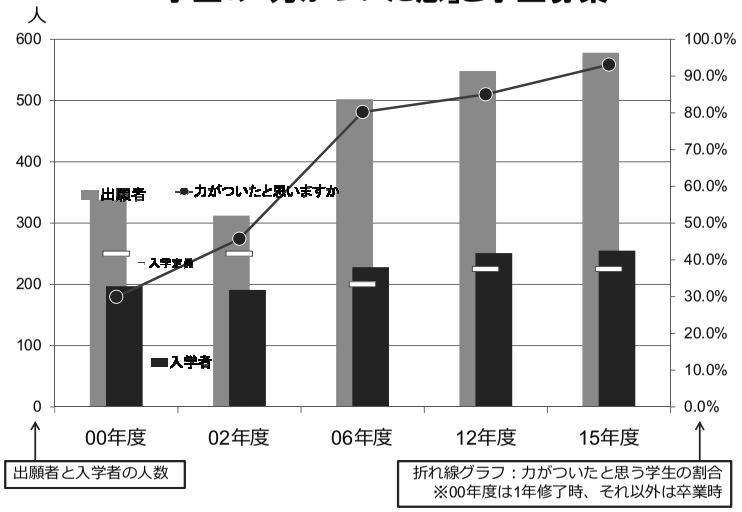


起業

2015年度卒業生調査



学生の「力がついた感」と学生募集

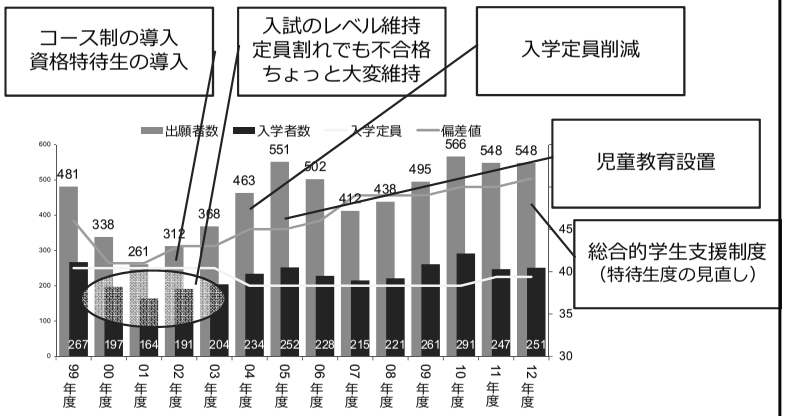


取組を支える教職一体ガバナンスと学職協働

■定員回復のシナリオ＝カンフル剤

■みんなが支える大学コミュニティ化＝持続可能な文化づくり

具体的なカンフル剤的取組



53

コース制の導入

■国際社会学・国際社会学科のみの構成
□何を学ぶかわからない
□何を学んだかわからない
□帰属意識がない
□担当学生がわからない

↓

■科目分けだけではなく・・・
□教員も配置
□入試の段階でコースを志望
□コース別に卒業要件も異なる
□広報ではコース推し
■学科と同じような位置づけでいながら・・・
□自由度・学びの広さを維持
□教員数定数は1学科扱い

↓

■コースで学科に匹敵
■学びの明確化
■所属意識（学生も教員も）

資格特待生の導入

■英検2級で授業料全額免除が4年間
□その後、簿記二級、情報処理技術者試験も
■毎年成績による資格審査
□勉強する雰囲気が一気に高まる
■入学前に自分に資格があるかがわかる！
□合格後の資格取得も対象→勉強を継続
■偏差値が低い時は・・・
□優秀な学生の入学の言い訳としても機能

↓

■入学後に、当該資格の能力を伸長させられるかどうかが鍵
□資格特待の学生が就職で良い結果を出す→受験生にアピール
□高校が共愛シフト（＝英検対策）

現在は全額免除1年間のみ

入試レベル維持

■推薦入試の評定は開学以来変更していない
□一時期は高校の進路の先生におしかりも・・・
■定員割れの時も一般入試でも不合格を出す

↑

■自分たちの教育力はそんなに高くない。
■社会的責任を果たす→地域の信頼を得る

入学定員削減

■より少人数を徹底する
□学生の力をつける
□学生の満足度を上げる
■入試レベル向上を期待
■小規模経営体制の整備

現在は定員割れ回避が最優先

共愛学園前橋国際大学

54

みんなが支える大学コミュニティ化
～地域重視・私の大学・学生中心の文化づくり～

地域を重視する

- 当初、全国で有名になろうと・・・
- 「地域で学生が集められないのに全国から集まるはずがない」

「私の大学」をつくる

- 教職員全員が「経営者」
- 学生にとって、私の大学
  - 私の大学が「悪い」はずがない

学生中心主義の真の意味

- お客さんではない
- 学生にとって大切なことは大変なこともある
- 学生も大学づくりの主役だから責任もって
  - 学生は大学運営のパートナー
- 大学を支えてくれているのは誰でもない学生である

共愛学園前橋国際大学

55

教職一体ガバナンス：教職員がフラットに参画する大学運営

TS 32名（学長含む）　MS 37名（嘱託等含む）

- TS＝Teaching Staff　MS=Management Staff
- 大学の方向性を左右するような最重要事項は、全教職員が参画するスタッフ会議で話し合います。
- センター長やセンター内のグループ長は合議で決めます。
（TS/MS・職位など関係なく選びます）

共愛学園前橋国際大学

56

スタッフ会議

開学前夜
- 第1回スタッフ会議
- 第一の議題：事務局の机のレイアウト

開学後3年
- 毎月開催
- 教員人事、学籍異動等、すべての議題
- 会議満足度アンケート実施　　一般スタッフから議長団を選出

現在
- 年2回＋臨時

これまでの大きな議題の例
- 人件費抑制規程（※）
- 教員の多様な勤務形態（※）
- コース制の導入
- 特待生・奨学金制度の改変
- KYOAI COMMONSの建築
- GGJ/COC/AP等への申請
- ポートフォリオシステムの導入
- 大学の強み・弱み
- 今後の大学運営のコンセプト　等々

共愛学園前橋国際大学

フラットな組織の例？

- 人件費抑制規程
  - 帰属収入の55%を超えたら人件費を抑制
  - **現在まで適用なし(^^)/**
  - 社会的責任を果たすために入試を厳格に行うため
    - たとえ定員が割れても基準に満たなければ不合格という決意
- 教員の多様な勤務形態
  - フル・５０%・２５%の働き
  - ５０%⇔フル：年度ごと選択可

40代で選ばれた前学長

学生に一番人気の先生だから

30代で選ばれた現学部長

30代講師で選ばれた元学部長

学長候補者選考委員会
- 教職員（選挙）/理事/役職者

→ **意見の集約**
- アンケート
- 意見交換会
- etc

→ **候補者の選定**
- 1～2名

→ **信任投票**
- 全教職員による

→ **理事会**
- 承認

学職協働：学生は大学づくりのパートナー

大学運営への学生参画

- ＩＴサポート
- 英語アカデミックチューター
- ＴＡ（ティーチングアシスタント）
- 図書館ピアチューター（ラピタデスク）
- 留学生チューター
- 障がい学生支援チューター
- 学生広報スタッフ/オープンキャンパス運営
- 学生カフェ運営
- インターンシップ奨学金
- ワークスタディ奨学金
- SH防止ガイドライン作成委員会（2000）
- ４号館建築プロジェクト（2010-11）
- 部室棟建設プロジェクト（2014）
  ：学生に予算を預け学生が担当。
- 国際交流寮建築プロジェクト（2015）

(参考)学職協同組織SAS(Student & Staff)を開学時に設置、学生がスタッフのリーダーになることも。

学生による取組

- 学内フリーペーパー
- エコ・キーパー
- ネット情報発信
- キャリア学習
- 新入生歓迎・留学生歓迎行事
- 近隣地域安全パトロール
- 各種多様な学内イベント

※一部は学生プロジェクト奨学金で支援

学生の意見を反映させる取組

- スピークアップ相談システム
- 学生アンケート
- 授業アンケート

学内でPBL（一部ご紹介）

部室棟建設プロジェクト

オープンキャンパス企画運営プロジェクト

学生カフェ運営プロジェクト

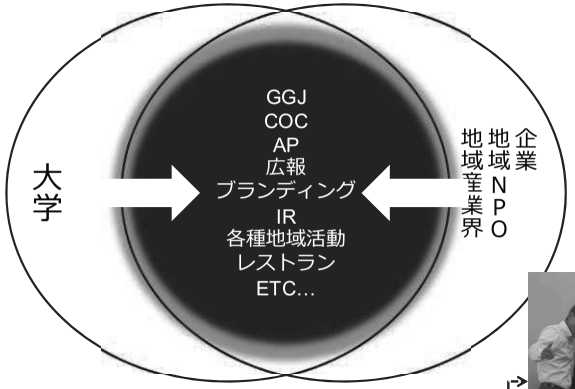
学内でSL（一部ご紹介）

ピア学修支援（ラピタデスク）

英語アカデミックピアチューター

ITサポート

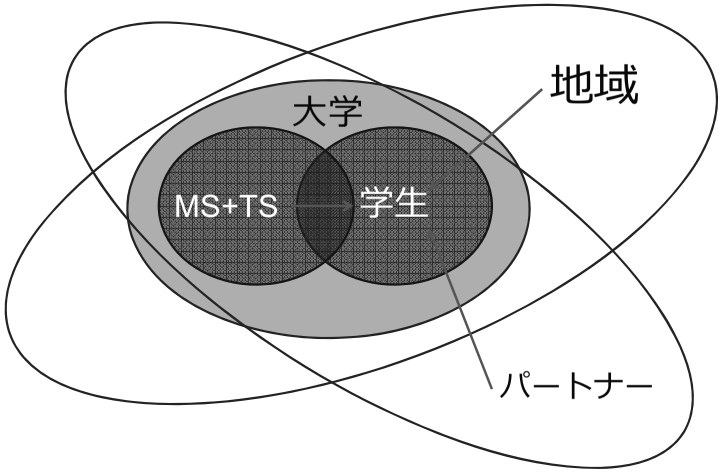
様々な主体が学生と大学を支えるパートナーに



- 卒業生が通う食堂のバックヤード
- 在学中は彼らの「教育」を食堂が担ってくれた。
- 120周年記念式典で唯一店長に感謝状贈呈

61

「大学」という「コミュニティ」



参考資料 62

（参考）

- 本学WEB：http://www.kyoai.ac.jp
- 本学FB：https://www.facebook.com/kyoai.ac.jp
- GGJ HP：http://ghrd.kyoai.ac.jp/
- COC HP：http://coc.kyoai.ac.jp/
- KYOAI Glocal Project FB：https://www.facebook.com/KYOAI.GLOCAL.PROJECT
- ユビキタスキャンパス：http://www.kyoai.ac.jp/ipod/index2.html
- KYOAI COMMONS：http://www.kyoai.ac.jp/4thBld/
- KYOAI COMMONS FB：https://www.facebook.com/KYOAI.COMMONS
- 共愛COCO（学生グループ）FB：https://www.facebook.com/Kyoai-COCO-project-404861633048258/?fref=ts
- サービスラーニングターム学生報告動画
  長期インターン１：https://youtu.be/tS7xR-JjXmg
  長期インターン２：https://youtu.be/9Yb8pxL5uns
  長期インターン３：https://youtu.be/TuNu7U5ymgA
  RPW（共愛COCO）：https://youtu.be/cxdU_PLiT_4

- 『地域に愛される大学のすすめ』（三省堂）：
  http://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen/gen6edu/chiiki_ai_daigaku/
- 『「深い学び」につながるアクティブラーニング ―全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題』（編著：河合塾／発行：東信堂）：
  http://www.kawaijuku.jp/research/book/#book08

1

共愛学園前橋国際大学の新たな取組
ー学修成果の可視化による教育質保証に向けてー

共愛学園前橋国際大学
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY

2

最新参考記事

http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2016/04/post-20.html

2016年度のAPの新テーマ「卒業時の質保証」に申請予定の大学にとって、同事業で「学修成果の可視化」に取り組む共愛学園前橋国際大学の事例が参考になりそうだ。

3

教育質保証の必要性と動向

4

教育質転換→成果の可視化

教える → 学ぶ → 何を教えたか → 何ができるようになったか

- ディプロマポリシーの実質化と説明責任
- 社会への接続　ディプロマサプリメントという新たな考え方
- 内部質保証 ↑ 認証評価
- 高大接続　学力の3要素をどう伸長させるかの明確化

学生の・・・
- ■大学で学ぶ意義の明確化
- ■自律的な学修者への成長
- ■卒業時、そして生涯を通してのキャリア形成

大学信頼度向上

結果的に

学生満足度向上

学生募集

確立されていない学修成果の可視化手法

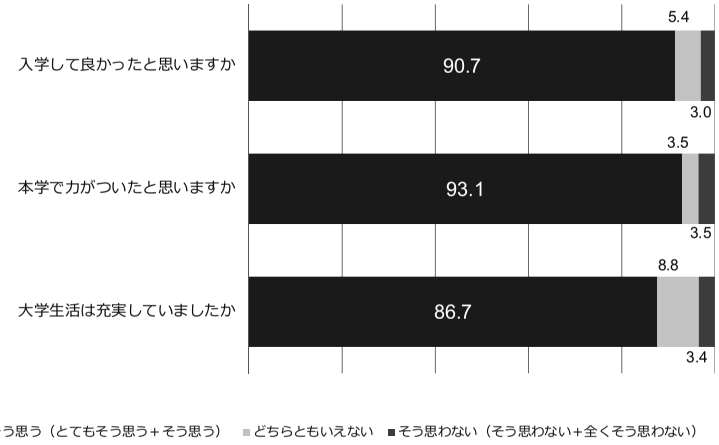
- **学士課程答申（Ｈ２０）**
  - 学位所の方針等に即して、学生の学習到達度を的確に把握・測定し、卒業認定を行う組織的な体制
  - 学士課程教育を通じて到達すべき学習成果は、・・・課外活動を含めあらゆる教育活動の中で、修業年限を通じて培うものである。
- **質転換答申（Ｈ２４）**
  - 成果の評価に当たっては、学修時間の把握といった学修行動調査やアセスメント・テスト（学習到達度調査）、ルーブリック、学修ポートフォリオ等、どのような具体的な測定手法を用いたかを併せて明確にする。
- **高大接続答申（Ｈ２６）**
  - 大学において育成すべき力を学映画確実に身につけるためには、大学教育において「教員が何を教えるか」よりも「学生が何を身に付けたか」を重視し、学生の学習成果の把握・評価を推進することが必要である。
  - 大学としての共有の評価方針（アセスメント・ポリシー）を確立したうえで、学生の学習履歴の記録や自己評価のためのシステム開発、アセスメント・テストや学習行動調査等の具体的な学習成果の把握・評価方法の開発・実践、これらに基づく厳格な成績評価や卒業認定等を進めることが重要である。

学修成果の可視化に係るキーワード：様々なフェーズが混在

ディプロマ ポリシー	ディプロマ サプリメント	アセスメント テスト
学修成果指標	学修ポートフォリオ	ルーブリック
学修行動調査	外部テスト （PROG等）	教学ＩＲ （コンソーシアム）

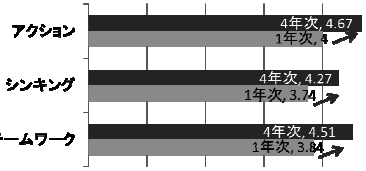
学修成果の可視化とキャリアへの接続
ー共愛学園前橋国際大学の具体的な取組ー

初期段階ー例年のアンケートー

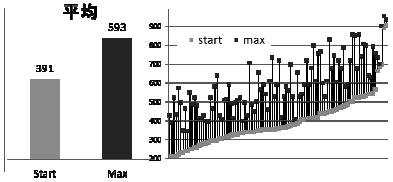


第二段階ー独自調査や定性的な評価ー

社会人基礎力の伸長（全学）



英語力の伸長（英語コース）



ALL JAPAN STUDENT ENGLISH PRESENTATION CONTEST

Only 5 Finalists!

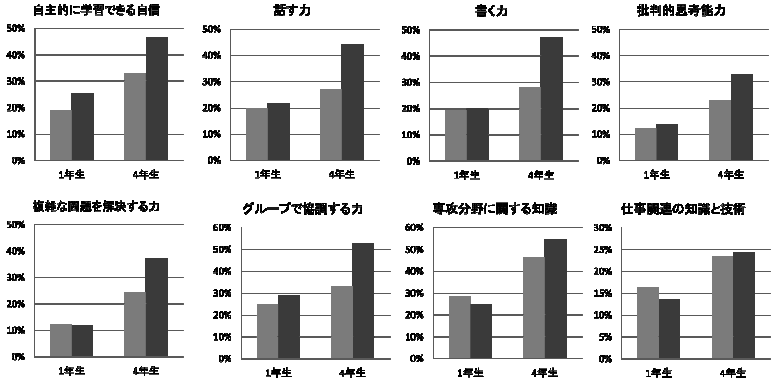
GUNMA INNOVATION AWARD
ビジネスプラン部門大学生の部
2年連続優勝

第三段階ー外部機関と協働しての学修行動調査やPROGの活用ー

オーストラリア教育研究所・河合塾「日本の大学生の学習経験調査」より

対象者：大学1年生3990名（うち本学学生129名）、大学4年生2977名（うち本学学生83名）

専攻課程を通じて、○○（する力）は向上したと思いますか　「非常に」または「かなり」と回答した学生の比率

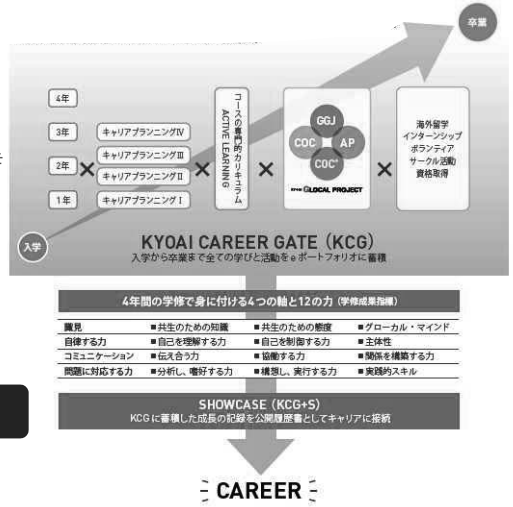


本学　本学以外の大学

現在の取組ーKYOAI CAREER GATEー

4年間の
主体的な学修とその成果を
目に見える形で積み上げ、
キャリアにつなげる。

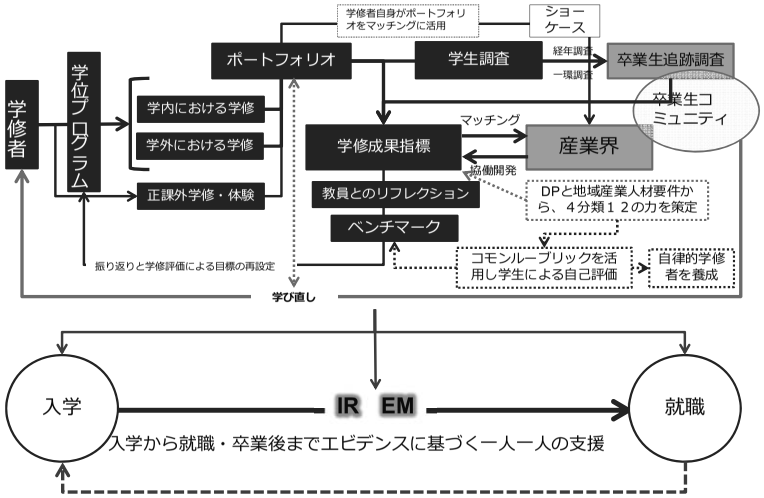
4年間に出会うたくさんの学びと活動。その一つ一つを、eポートフォリオである
KYOAI CAREER GATE
に蓄積し、自分の学修を振り返りながら、それをエビデンスとして、学修成果指標に基づく成果の自己評価と可視化をします。
さらに、その活動や成果を
SHOWCASE
を通して社会へと発信し、目ざすキャリアへと接続します。



コンセプト

- 自律的学修者育成

4年間の総体としての学生の成長を可視化するサイクル



13

DPと学修成果指標

ディプロマポリシー（DP）：卒業時に身につける力
1.地域社会の諸課題への対応能力
2.国際社会と地域社会の関連性についての識見
3.問題を発見し解決するための分析能力・実技的技能
4.国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力

＋ 各コースが育む知識・スキル

DPと汎用能力から導かれる達成指標

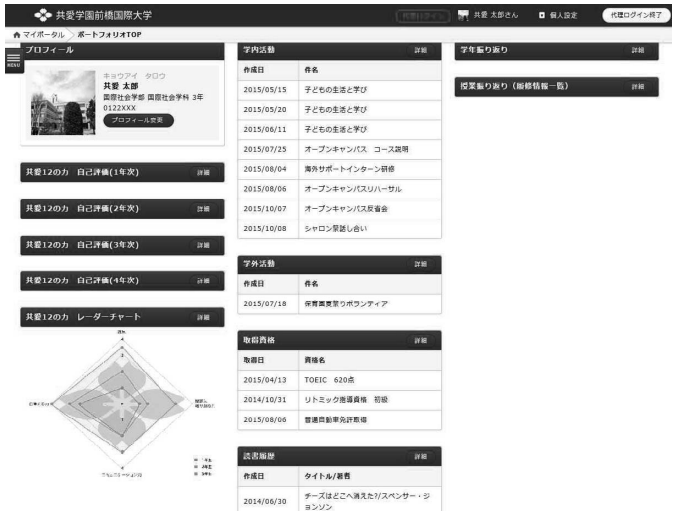
識見	共生のための知識	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する知識
	共生のための態度	倫理観、シチズンシップ、学び続けることを尊重する態度
	グローカル・マインド	国際社会と地域社会（群馬）の関わりを捉える視点
自律する力	自己を理解する力	自分の特徴、強みや弱み、成長を把握する力
	自己を制御する力	ストレスに対処し、学びやその他行動を持続させる力
	主体性	自ら課題を見つけ、行動計画を立て、実行していく力
コミュニケーション力	伝え合う力	読み、書き、会話し、表現し、伝える力
	協働する力	チームで物事に取り組む力
	関係を構築する力	他者と円滑な関係を築く力
問題に対応する力	分析し、思考する力	情報を収集・分析し、問題を見つける力／論理的思考力
	構想し、実行する力	問題に対応するためのプランを立て、実行する力
	実践的なスキル	現代社会において必要な基礎スキルと専門的スキル

学生は毎年度この達成指標のどのレベルに自分が位置しているかを「コモンルーブリック」を活用し、「ポートフォリオ」をエビデンスに自己評価
↓
教員とのリフレクション
↓
次期の学修計画

将来は卒業時に一定の評価を越えて初めて学位授与

15

Kyoai Career Gate（eポートフォリオ）



参考資料 14

共愛学園前橋国際大学コモンルーブリック

4の軸	12の力	12の力の定義	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
識見	共生のための知識	多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識	共生のための社会の諸課題に対応するための、新たな知見を生み出すことができる。	共生のための社会の諸課題について、知識を組み合わせて、自分の言葉で説明することができる。	所属するコースの専門的な知識を習得している。	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。
	共生のための態度	多様な存在が共生可能な社会のために、考え、学び、行動し続けることができる。	多様な存在が共生する社会の中で自分ができること、やらなければいけないことについて考えることができる。	多様な存在が共生する社会の中で、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。	授業や活動を通じて、社会が多様な存在で構成されていることを理解し、多様性を尊重する気持ちを持っている。	自分の態度や信念は他の文化やコミュニティの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。
	グローカル・マインド	地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢	地域社会と世界をつなぎ、自らが暮らしていく地域の発展に貢献するグローカル人材として活躍していくビジョンを持っている。	地域社会と国際社会の関わりについて、様々な学びを通じて、主体的に考えることができる。	母国以外の政治・経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。	自らの暮らし、学びの場である地域の経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。
自律する力	自己を理解する力	自己の特徴、強みや弱み、成長を正確に理解する力	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に表現でき、将来に向けての自分をイメージすることができる。	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。	自らの興味関心や特徴、長所や短所について考えながら、授業や活動に取り組むことができる。	授業や学内外の活動を通じて、自分の興味関心のありかを確認したり、新たな興味の対象を見つけようとしたりしている。
	自己を制御する力	ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力	ストレスや感情の揺れ動きと上手く付き合いながら、大きな困難に挑戦し、価値あることをやり遂げた経験と自信がある。	ストレスや感情の揺れ動きと上手く付き合いながら、困難な課題に取り組み続けることができる。	達成が容易でない課題でも、最後まで粘り強く取り組むことができる。	設定した目標に向かって、取り組むことができる。
	主体性	人からの指示を待つのでなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力	達成困難な課題であっても、解決のための方法を模索しながら、自ら動き続けることができる。	自らすべきことを見つけ、行動しその結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。	指示を待つのではなく、自分の状況を判断した上で、自らすべきことを見つけ、行動している。	指示を待つのではなく、何をすればよいか、するべきかを見つけようとしている。
コミュニケーション力	伝え合う力	コミュニケーションにおいて相手の意図を正しく理解し自分の意図を効果的に伝達する力	レベル1～3を複数の言語で行うことができる。	適切なコミュニケーション・ツールを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。	コミュニケーションの状況や相手の立場を考慮して、伝達方法を工夫することができる。	発言や文章の論点を正しく理解することができる。
	協働する力	他のメンバーと協調しながら集団として目標に向けて行動する力	良いグループになるための条件を常に模索し、他のメンバーへの働きかけを通じて、グループの目標達成に貢献することができる。	多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。	グループでの自分の役割、責任を理解し、自分なりにグループに貢献することができる。	他者の発言をよく聞き、会話の流れをしっかり追いながら、グループに協力することができる。
	関係を構築する力	様々な他者と円滑な関係を築く力	自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。	互いの状況や立場についての理解を深め合うことにより、相手と円滑な関係を築いていくことができる。	相手の状況や立場を理解し、共感を示しながらコミュニケーションすることができる。	自分の気持ちを一方的に伝えるだけでなく、マナーを守り、相手を尊重してコミュニケーションすることができる。
問題に対応する力	分析し、思考する力	様々な情報を収集、分析し論理的に思考し課題を発見する力	必要な情報を効率的に集め、多面的視点から分析を行い、現実の、または学術上の問題について新たな課題を発見することができる。	情報・資料の分析を通じて、物事を多面的に見ることにより、問題を発見することができる。	自ら情報・資料を収集し、それらを論理的に分析し、考察することができる。	情報・資料を客観的に読み取ることができる。
	構想し、実行する力	課題に対応するための計画を立て、実行する力	現実の、または学術上の問題を解決するために、収集した情報や知識を活用しながら計画を立て、完遂することができる。	計画の進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正しながら、着実に実行していくことができる。	立てた計画を着実に実行することができる。	取り組むべき物事に対して合理的な計画を立てることができる。
	実践的スキル	現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル	問題解決に役立つ様々なスキルを組み合わせて、状況に応じて柔軟に活用することができる。	自らの強みとなるスキルを身につけ、問題に対応することができる。	学びに必要な基本的な事柄を自らのスキルとして活用できる。	学びに必要な基本的な事柄（コンピュータの使い方やレポートの書き方など）を理解している。

16

KCG 実際の学生画面

17

コモンルーブリックを活用した成果評価のエビデンス

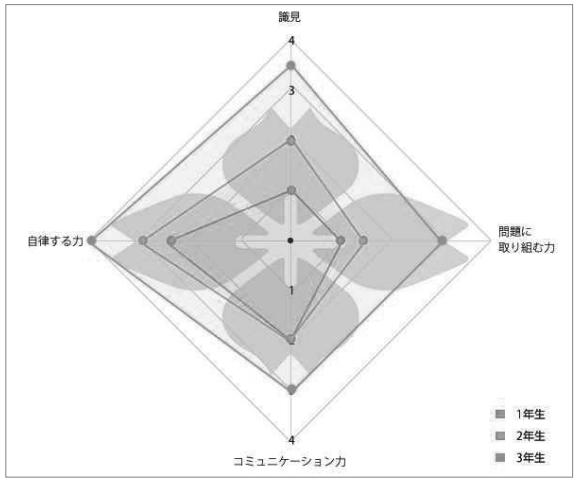
シラバスにおいて各授業で身につく力が明示されKCGとリンク

学生は活動を記録し振返るとき12の力をタグづけする

ルーブリックで自己評価する際に
力ごと蓄えられたエビデンスを検索することができる

18

共愛12の力　レーダーチャート



19

KCG＋S　（ショーケース）

20

KYOAI CAREER GATE　効果と課題

教職員が大学運営の中で12の力を意識し始める
＝教育の目標が明確になった

一年生がKCGへの書き込みを始める＝初年児教育の重要性
⇔
上級生は苦戦

成果可視化の客観性に関する議論の不可視化

KCG活用支援の充実が課題
→専門スタッフを配置
→教員の関与の活性化

リフレクションの時間確保

地域社会への周知

東京基督教大学

2016 年度 第 2 回

Faculty Forum

2016 年 12 月 6 日(火) 15:40-16:50

会場　FCC チャペル

＜研究発表＞　森田哲也先生

「発展途上国の社会的企業における宗教性と組織文化」

第 3 回 Faculty Forum は、2017 年 3 月 14 日(火)です

主催　ファカルティーディベロップメント委員会　fd@tci.ac.jp

発展途上国の
社会的企業における
宗教性と組織文化

東京基督教大学
森田哲也

アウトライン

- 研究の全体像
- （背景、目的）
- 研究の現時点での進捗報告
  - 現地での予備調査インタビュー
  - 今後の方向性

概要

- 『途上国の社会的企業における宗教性と組織文化：質的調査に基づく国際比較研究』
- 科学研究費助成事業（日本学術振興会）
  - 基盤研究(C)
- 研究代表者：木村 力央准教授
  - 立命館アジア太平洋大学, アジア太平洋学
- 平成28年～30年

社会的企業の歴史的背景

発展途上国（1990～）

慈善型NGOの代役として

- 参加型開発（Chambers)
- 持続可能な開発
- マイクロファイナンス
- 宣教と医療・教育活動
- Tentmaker
- Business As Mission

英・米・日（1970～）

政府に代わる担い手として

- 政府の財政赤字
- 福祉国家政策の破綻
- 小さな政府・規制緩和
- 企業の社会的責任
- 賀川豊彦(1920～)
- 公益と私益の統合

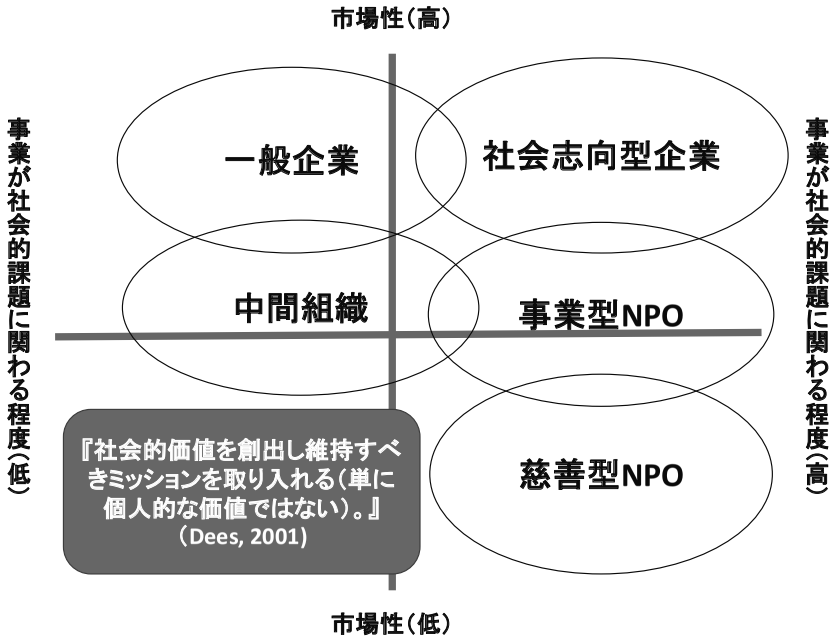
社会的企業の形態(谷本,2006)

非営利組織形態
- NPO法人
- 社会福祉法人
- 協同組合等

営利組織形態
- 株式会社・有限会社
- 社会的思考型企業
- 企業の社会的事業

事業型NPO	社会志向型企業	中間形態の事業体	CSR

慈善型NPO	アドボカシー型NPO



研究の学術的背景

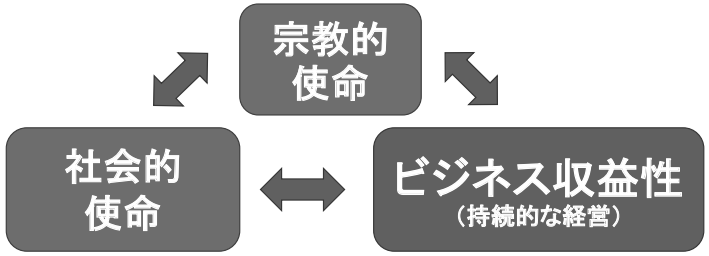
- 社会的企業における組織運営上の緊張関係
  - 市場競争下での経営破綻のリスク
  - 社会的使命実現との狭間⇒倫理的ジレンマ（Dees, 1998)
- マイクロファイナンスの限界
  - 投資効率重視のプレッシャー　vs　貧困解決の使命
  - 最貧困層　vs　都市部中流層
  - ⇒　Mission Drift (Mersland & Strøm, 2010)
- 社会的使命 vs ビジネス収益性 (Cornforth 2014)
  - 経済成長著しい途上国（Kimura, 2015)
  - 信仰を基盤とした組織の研究の必要性

研究の学術的背景

- 信仰を基盤とした社会的企業の組織運営
  - 宗教的使命との緊張関係 (Rundle, 2012)
  - 欧米のキリスト教系組織の研究(Greer and Horst, 2014)
  - 資金提供者のへ説明義務　＞　社会的使命
- 組織文化（ビジネス倫理及び実践）に対する宗教的価値の影響
  - リーダーの倫理観（Bradley, 2009)
  - 組織運営における信仰の重要性（Berger, 2003)

目的：どこまでを明らかにしようとするのか

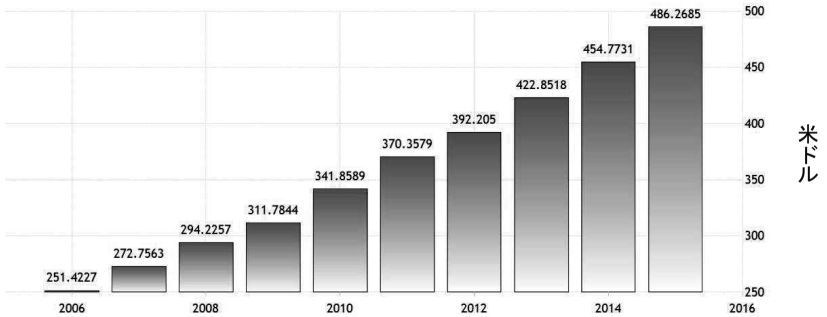
1. 宗教的使命、社会的貢献、ビジネス収益性の間の緊張関係の類型を明らかにする。
2. ビジネス倫理及び実践に対する宗教的価値の影響を解明する。



研究フィールド（エチオピア）

- 急速な経済成長（10年で約2倍）
- 2025年までに低中所得国（**$1,046～4,125**）
- 天然資源に依存しない軽製造業と農業の工業化

一人当たりのGDP



Source: http://www.tradingeconomics.com/ethiopia/gdp-per-capita

予備調査インタビュー

- 13 CEOs/マネージャー
  - 民間企業
  - NGOs
  - 私立学校（中高等学校）
  - 協同組合（小規模融資）
  - 神学教育機関

信仰を基盤とした組織

Faith-based organizations (FBOs)

1. 特定の宗教団体に属している。
2. 理念（使命）に宗教的な価値観が明確に記されている。
3. 財政的なサポートを特定の宗教団体から得ている。
4. 宗教的な信条や関係性を基にして理事会が組織されるようなガバナンスの形態。
5. 特定の宗教的価値に裏打ちされた意思決定のプロセスがある。

Ferris, Elizabeth 2005 'Faith-based and secular humanitarian organizations' *International review of the Red Cross* 87/858:311–325

発展途上国の事例(Ronsen　2016)

- The Center for Community Transformation (CCT) （フィリピン）
  - 顧客との親密な関係づくり（全人的な関わり）
  - 関係性の質を維持　＞　顧客獲得
  - 聖書研究グループの停止を求めるドナーにNO!
  - 信仰の共有を採用指針に組み込む。
- Step Ahead （タイ）
  - 社会的活動は包括的宣教を推進するツール。
  - 組織規模の拡大を優先させない経営陣。

見えてきた課題

- 経済成長社会での価値観の変容
  - 倫理観の欠如（汚職の多発）
  - 若者世代の世俗化（教会への影響）
  - 専門的スキルをもった信仰者の不足
  - 縁故主義（+多民族)の強化=アフリカ文化？
- 個人・組織レベルの黙従的対応を越えた戦略
  - 組織拡大 or 使命達成
  - 社会的起業を越えた「制度・文化」の起業家

今後の方向性（可能性）

- 制度・文化的秩序 (DiMaggio and Powell 1983)
  - 組織は流行にしたがう？(佐藤&山田　2004)
  - 制度固有のロジック(Friedland and Alford 1991)
    - 家族、コミュニティ、宗教、国家、市場、職能団体、企業
  - 「道具箱としての文化」(Swidler 1986)
  - 信仰を基盤とした組織の文化への影響

第 20 回　精神ケア学び会

テーマ：学生生活とアルバイト

2017 年 3 月 3 日(金)
10:30～11:45

第20回　精神ケア学び会　報告

日　時　　2017年3月3日(金)　10時30分～11時45分
場　所　　バルナバホール
参加者　　27名（理事1名，教員13名，職員13名）
テーマ　　学生生活とアルバイト

1　あいさつ・趣旨説明

私たち教職員が学生によりよく関わるためには，学生のメンタリティ・大学生の精神のメカニズムを知って関わる必要がある。私たちは生活をしながら精神活動をしているので学生の生活面をよく見る必要がある。今回はアルバイトが学生生活にどのような影響を与えているのかを考えたい。

2　世の中の現状

２月にNHKスペシャルで取り上げられた「見えない貧困」より高校生の置かれている現状を確認。子どもの６人に１人が世帯年収122万円以下という相対的な貧困世帯にある。この経済的に困難な状態は，進学費用の工面においても影響が大きい。

3　TCU生の現状

TCU生の欠食状況より。13～14年前の欠食理由は「教会奉仕」のみ認められたが，近年は事情が変わり欠食理由も5項目に増え，健康，アルバイト，経済問題，その他を追加。アルバイトの欠食が増えている。また「全欠食願い」を提出し，食堂で食べずに学納金の負担減をする経済的理由で申請する学生も毎年複数名いる。

学生のアルバイト先は，飲食店，家電量販店，映画館，英会話講師，福祉関連，保育園など様々。イオンモールやカインズ，コストコなどアルバイト先が増えているので，新聞配達をする学生はいなくなった。学生たちは，授業の隙間を縫ってアルバイトをしている。早朝のコンビニバイトも増えている。先輩の紹介や先輩の働きが評価されて後輩がスムーズに雇われるケースもある。アルバイトの目的としては，学費・生活費，趣味や自動車学校，その他。アルバイトは社会経験になる。

4　まとめ

（1）今どきの大学生の学生生活事情
（2）今どきの大学生の経済事情
（3）TCU生学業不振の原因
　①　基礎学力の問題
　②　メタ認知の問題
　③　家族の問題
　④　大学のシステムの問題
（4）提案
　①　TCU生家族・家計調査
　②　TCU生アルバイトの実態調査

③　キャリア支援とアルバイトの建設的な枠組み

④　教職員の学生との関わりにおけるサポート

(5) アルバイトとキャリア形成

・アルバイトとキャリア形成には相関関係がある。

・自己効力感を高めること。

・大学でのキャリア形成支援は，卒業後のキャリア形成に影響がある。

・良いアルバイトは良い就業体験につながる。インターンシップの活用。

精神ケア学び会

2017.3.3.

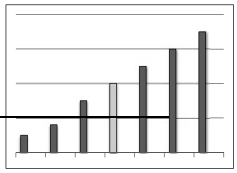
学生生活とアルバイト

相対的貧困

- 「相対的貧困」という「貧困」

所属している社会の普通の生活水準を
下回っている状態のこと
中央値にいる人の収入の半分以下の
収入の家庭 → 困窮度1

この水準を下回る収入が「貧困」



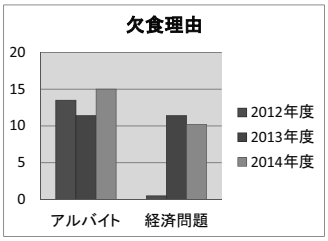
6人に1人（16.6%）

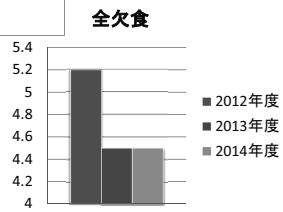
子どもたちから奪われるモノ

子どもたちから奪われるモノは物質資源だけではない！！

親の仕事が厳しい
余裕がない
深夜の仕事になる

家族旅行に行った事がない
お誕生日会をやった事がない
学校行事に参加できない





いまどき大学生の学生生活事情：

総務省「社会生活基本調査」より～

（平日）	学業	アルバイト	交際
1996年	257分	63分	48分
1991年	254分	74分	51分
1996年	223分	87分	45分
2001年	225分	92分	45分
2006年	268分	79分	31分
2011年	273分	79分	27分

いまどき大学生の経済事情：

☆受験から入学までの費用は214万円（自宅外通学者）

☆入学の年にかかる費用は295万円（自宅外通学者）

☆毎月の仕送り学は86700円、
一日の生活費は850円

☆奨学金の希望者は6割、うち申請者6割

☆「授業料の直接助成制度化」の必要、9割

学業不振の原因:

☆ 基礎学力の問題
☆ メタ認知の問題(バイト)
☆ 生活の問題(バイト)
☆ 家族の問題(バイト)
☆ 心理・精神の問題(バイト)
☆ 大学のシステムの問題？？？

提案:

☆ TCU生の家族の家計調査？

☆ TCU生アルバイトの実態調査？

☆ キャリア支援とアルバイトの
建設的な枠組みの構築？

☆ 教職員の学生との親しい関わりに
おけるアドバイスやサポート

アルバイト経験とキャリア形成:

☆発達心理学的～学童期の自己効力感

☆キャリア教育～学校でのキャリア形成支援

☆社会学的～家族、先輩、友人の影響

☆アルバイト～就業体験

東京基督教大学

2016年度 第3回 Faculty Forum

学問と実践

John Templeton Foundation 助成研究プロジェクト

「震災後の日本における宗教的ミニストリーの理論と実践」成果報告

Science for Ministry in Japan:

The Theory and Practice of Christian Ministry in the Face of Natural Disasters

2017年3月14日(火)9:30-12:00

会場　FCCチャペル

TCUは神学部単科の大学である。しかしキリスト教世界観に基づいたリベラル・アーツ教育を重視している。学生は人間観、社会観、自然観および神学、歴史等の分野と語学において個別の科目を通してこれらの内容を学んでいる。では教える教員の方は、個別専門分野の境界を越えて、自らのうちで総合的にこれらについてどの程度のインテグレーションをなしているのであろうか？

キリスト者教養人として教会と市民社会形成に奉仕し参加していくための討議のときを設けたい。具体的には過去3年間に行った John Templeton Foundation 助成による研究プロジェクト「Science for Ministry in Japan: The Theory and Practice of Christian Ministry in the Face of Natural Disasters 震災後の日本における宗教的ミニストリーの理論と実践（April 2014–December 2016）」の成果報告である。

＜プログラム＞

プロジェクト概要報告	報告者：井上貴詞／岩田三枝子／山口陽一／稲垣久和
レスポンス	応答者：岡村直樹＋森田哲也
	B-1研究会「市民ボランティア、地域ガバナンス、公共政策」を中心に
	Citizen Volunteers, Regional Governance, and Public Policy Research Meeting
討論	

主催　ファカルティーディベロップメント委員会　fd@tci.ac.jp

FD Forum

学問と実践

John Templeton Foundation 助成研究プロジェクト報告会

2017年3月14日（火）9:30-12:00 国際宣教センターチャペル

プログラム－1

1 自然科学・医療看護・スピリチュアリティ（理論編）

Study Meetings

A-1 研究会「脳神経科学とポジティブ心理学」

A-2 研究会「医療看護とスピリチュアリティ、そして日本的“思いやり”倫理」

2 地域社会のministryを支えるリーダー、ケアワーカー（実践編）

Study Meetings

B-1 研究会「市民ボランティア、地域ガバナンス、公共政策」

B-2 研究会「フクシマ再生と福祉的町づくり」

Seminar

教会教職特別セミナー

Workshop

いのちのケアセミナー

Symposia

第1回 21世紀に甦る賀川豊彦・ハル　2015年3月14日（土）

第2回 助け合いの心が日本社会を変える！－市民社会と賀川豊彦の友愛精神　2016年10月29日

Ⅰ プロジェクト概要報告

Science for Ministry in Japan: The Theory and Practice of Christian Ministry in the Face of Natural Disasters

震災後の日本における宗教的ミニストリーの理論と実践　2014.4–2016.12

http://www.tci.ac.jp/smj/

A-1 A-2 B-1 研究会　毎回のプログラム

1：00－1：30	到着後の歓談
1：30－1：45	イントロダクション（稲垣）
1：45－2：30	発題1
2：30－3：15	討論1
3：15－3：30	ティータイム
3：30－4：15	発題2
4：15－5：00	討論2
5：00－5：15	ティータイム
5：15－6：00	コメント・総合討論

会場：ホテル東京ガーデンパレス、アイビーホール、TKP御茶ノ水ガーデンシティ、ほか

A-1 研究会「脳神経科学とポジティブ心理学」

プログラムリーダー：稲垣久和＋サブリーダー：大和昌平

第1回　2014.5.24　発題：浅野孝雄｜脳神経外科学＋保江邦夫｜数理物理学

ミニ研究会（第1回）2014.7.19　発題：浅野孝雄

ミニ研究会（第2回）2014.9.20　発題：石戸 光｜開発経済学、数理経済学

第2回　2014.11.22　発題：浅野孝雄＋大和昌平｜仏教学、実践神学

第3回　2015.05.23　発題：小林正弥｜政治哲学・公共哲学＋浅野孝雄

第4回　2015.11.21　発題：郡司ペギオ幸夫｜理論生物学＋小林正弥

第5回　2016.0514　浅野孝雄＋小林正弥

B-1 研究会「市民ボランティア、地域ガバナンス、公共政策」

プログラムリーダー：稲垣久和、サブリーダー：岡村直樹

第1回　2014.06.28　発題：広井良典｜公共政策、科学哲学＋岡村清子｜老年社会学、福祉社会学、女性労働論

第2回　2014.10.25　発題：長谷川（間瀬）恵美｜神学、宗教学（キリスト教）＋岡村直樹｜宗教教育学、宗教心理学、現象学的研究方法論

第3回　2015.07.04　発題：福島慎太郎｜地域社会学、社会心理学、社会調査論＋松葉ひろ美｜福祉思想

第4回　2015.10,24　発題：広井良典｜公共政策、科学哲学＋篠田 徹｜政治学、労働政治

A-2 研究会「医療看護とスピリチュアリティ、そして日本的“思いやり”倫理」

プログラムリーダー：稲垣久和

第1回　2014.06.14　発題：小西達也｜スピリチュアリティ論、スピリチュアルケア論＋伊藤高章｜ 臨床スピリチュアルケア、キリスト教史、臨床教育

第2回　2014.10.11　発題：谷山洋三｜臨床死生学、仏教福祉学＋稲垣久和｜公共哲学

第3回　2015.06.06　発題：発題： 森村 修｜哲学、倫理学＋小西達也

第4回　2015.10.10　発題：黒住 眞｜日本思想史、比較思想宗教＋小松優香｜国際関係論、公共哲学

第5回　2016.06.04　発題：稲垣久和＋松島公望｜発達心理学、教育心理学、宗教心理学

B-2 研究会「フクシマ再生と福祉的町づくり」

プログラムリーダー：井上貴詞、サブリーダー：豊島集司

第1回　2014.11.29　日本同盟基督教団 いわきキリスト教会

第2回　2015.11.28　日本同盟基督教団 いわきキリスト教会

教会教職特別セミナー

プログラムリーダー：山口陽一

2014/9/8	増井恵 師 日本同盟基督教団・いわきキリスト教会 牧師	いわきにある教会 震災の―前と後
2014/9/29	木田恵嗣 師 ミッション東北、郡山キリスト福音教会 牧師	福島に生きて ―東日本大震災をくぐり抜けた牧師の証
2015/9/7	米内宏明 師 日本バプテスト教会連合・国分寺バプテスト教会 牧師	共に見上げる蒼穹 ―被災地から見える教会の姿は
2016/2/1	柴田初男 氏 本学 国際宣教センター 日本宣教リサーチ 専門委員 ヒューレット柳澤えり子 氏 アジアンアクセス リサーチフェロー	震災と信仰調査報告会 ―被災地から学ぶ日本宣教のあり方
2016/5/23	大友幸一 師 保守バプテスト同盟・塩釜聖書バプテスト教会 主任牧師	『震災と信仰調査』に見るこの5年と これからの5年
2016/12/12	朝岡勝 師 日本同盟基督教団・徳丸町キリスト教会 牧師	〈あの日〉以後を生きる―震災から5年9ヶ月

日本宣教リサーチ

プログラムリーダー：山口陽一、実施：柴田初男

「震災と復興調査」実施（日本福音同盟、宮城宣教ネットワーク、アジアンアクセスと協同）

日本伝道会議日本宣教170▸200プロジェクト（第6回日本伝道会議 JCE 6の一環）参加

データブック作成

いのちのケアセミナー

プログラムリーダー：岩田三枝子

第1回 2015.1.13
ゲスト：Japan Alive（ローレンス綾子さん、ローレンス・マイカさん、松坂有里子さん）
＋村田恭子さん

第2回 2015.6.5　ゲスト：関根美智子さん（社会福祉法人・同仁学院施設長）

第3回 2016.9.15　ゲスト：野田和裕さん（ライフワークス社代表取締役）

スタッフとして協力してくれた研究科生

研究成果の公開－1

教会教職特別セミナー

『被災地支援と教会のミニストリー—東北ヘルプの働き』秋山善久・川上直哉 2014.3

『原発は人類に何をもたらすのか—聖書と現場から見えてくるもの』水草修治・内藤新吾 2014.6

『被災地と心のケア—「仕える教会」を目指して』藤掛明・朝岡勝 2014.6

B-2 研究会「被災地復興と福祉的街づくり」

『原発避難者と福島に生きる』増井恵・西原千賀子・木田恵嗣 2016.3

[以上はいずれも FCCブックレット〈東京基督教大学国際宣教センター編、いのちのことば社〉として刊行]

日本宣教リサーチ

『「震災と信仰調査」報告書』刊行（2016年7月）

『データブック 日本宣教のこれからが見えてくる』（いのちのことば社、2016年9月）

研究成果の公開－2

シンポジウム

共立パンフレット Kyoritsu Brochure [共立基督教研究所]

8号　第1回賀川豊彦シンポジウム「21世紀に甦る賀川豊彦・ハル」2017.8予定

9号　第2回賀川豊彦シンポジウム「助け合いの心が日本社会を変える！—市民社会と賀川豊彦の友愛精神」2017.3

DVD [制作・販売：ロゴスフィルム]

第1回賀川豊彦シンポジウム「21世紀に甦る賀川豊彦・ハル」2016.3

第2回賀川豊彦シンポジウム「助け合いの心が日本社会を変える！—市民社会と賀川豊彦の友愛精神」2017.4

『共立パンフレット』『Emergence 創発』はプロジェクト専用ウエブサイトにて公開
http://www.tcl.ac.jp/smi/%E5%88%8A%E8%A1%8C%E7%89%A9/

研究成果の公開－3

A-1 、A-2、B-1 研究会

Emergence 創発 [共立基督教研究所]

14巻01号　脳神経科学とポジティブ心理学 1　2017.3

14巻02号　脳神経科学とポジティブ心理学 2　2017.7予定

14巻03号　市民ボランティア、地域ガバナンス、公共政策 1　2017.4予定

14巻04号　市民ボランティア、地域ガバナンス、公共政策 2　2017.6予定

14巻05号　医療看護とスピリチュアリティ、そして日本的"思いやり"倫理 1　2017.6予定

14巻06号　医療看護とスピリチュアリティ、そして日本的"思いやり"倫理 2　2017.7予定

14巻07号　学問と実践－市民社会の幸福とは　2017.7予定

『福祉の哲学とは何か—ポスト成長時代の幸福・価値・社会構想』
広井良典編＋稲垣久和＋小林正弥＋松葉ひろ美 著（ミネルヴァ書房）2017.3

II レスポンスと討論

B-1研究会「市民ボランティア、地域ガバナンス、公共政策」を中心に

レスポンス①　岡村直樹

（資料はPPT資料の後に掲載）

社会的セーフティネットの進化と構造

今後求められる新たなセーフティネット
＝コミュニティ、及びシステムのもっとも根幹に遡った社会化
（人生前半の社会保障、ストックの社会保障等）

事前的

C．雇用という
セーフティネット

B．社会保険のセーフ
ティネット

A．生活保護（公的扶助）の
セーフティネット

事後的

出典：2014年7月28日「ポスト成長時代の地域／公共政策と価値」広井良典教授による発題プレゼンテーションより

レスポンス②　森田哲也

LAUSANNE GLOBAL CONSULTATION

- 「人々と社会の変革における
  経済的富の創出の意義・役割」

LAUSANNE GLOBAL CONSULTATION

- 「人々と社会の変革における経済的富の創出の意義・役割」

1. 「キリスト教会の役割」
2. 「貧困削減」
3. 「環境」
4. 「文化」
5. 「キリスト教的観点から見た富の創造」
6. 「富の創造者（営利活動団体）」
7. 「正義」

営利活動における関係性
RELATIONAL PROXIMITY FRAMEWORK

経済活動 + 社会保障（福祉）

- 「あなたの神、主を心に据えなさい。主があなたに富を築き上げる力を与えられるのは、あなたの先祖たちに誓った契約を今日のとおりに果たされるためである。」　申命記8:18
- 「・・家を建てて住みつき、畑を作って、その実を食べよ。・・・その町の繁栄を求め・・」　エレミヤ書28:4-7

関係性の評価

1. コミュニケーション（直接的＝質）
2. ストーリー（持続的な信頼関係）
3. 知識（情報）の共有
4. パワー（意思決定のプロセス）
5. 目的（共通の方向性）

2017-3-14

東京基督教大学・ファカルティーフォーラム
市民ボランティア・公共政策
「東日本大震災における学生ボランティア活動とサービスラーニングの導入」

レスポンス：岡村　直樹

発表の背景と目的

発題者は、2014年に参加したテンプルトン研究会において、東日本大震災でのボランティア活動に参加した学生の内面的変化に着目した研究発表を行った。またその際、2014年度から2017年度にかけての実施が計画されていた科研費研究（基盤C：課題番号 #26381143）の内容が同時に紹介され、発表後にはその部分も含め、ディスカッションの対象となった。研究は、関東圏の私立大学、特に建学の精神に「社会奉仕」や「地域貢献」の重要性を掲げる大学を対象に、東日本大震災における震災ボランティア活動の内容と、それによってもたらされた教育効果を分析・検証したものである。本日のレスポンスは、この科研費研究の中から、特に宗教系の大学に焦点を当てつつ語られる。研究全体は2014年度から15年度にかけて、東日本大震災ボランティア活動の有無やその内容等に関するアンケート調査、および聞き取り調査を通して実施された。収集されたデータをもとに、ボランティアラーニングやサービスラーニング・プログラムの導入を検討する大学にとって有益なデータを提供することが研究目標として設定されている。サービスラーニング（Service Learning）とは、学生が座学によって獲た学問的な知識を、社会における実践的な奉仕活動と組み合わせることにより、学修経験を豊かなものにしつつ、それらを通して市民としての責任を感じさせ、また彼らを生涯にわたる地域への社会貢献（サービス）に結びつけることを目標とした教育方法である。

調査の方法と内容

第一次調査として、関東圏のすべての私立大学（四年制大学、および短期大学）を対象に往復ハガキを用いた簡単なアンケート調査（活動の有無、形態等に関する質問）を実施した。302校に送付されたアンケートに対して、194校から回答があり、有効解答率は、65％となった。またそれらの大学の取り組みは、大きく以下の4通りに分類ことができた。(A) 大学が主体となってボランティア活動を組織した。63校（約32%）、(B) 大学のサークル等のボランティア活動を大学が後援した。13校（約7%）、(C) 学生個人や大学のサークル等が中心となって活動を行った。105校（約54%）、(D) 大学としてはあまりよく把握していない。13校（約7%）

第二次調査は、第一次調査に対して、(A) または (B) と回答した大学の中から、震災ボランティア担当者の部署と名前が提供された学校57校に対して実施された。回答は37校からあり、有効解答率は第一次アンケート調査同様、65％となった。第二次アンケート調査では、活動の内容に関する質問と、教育と建学の精神に関する質問がなされ、重要なデータが収集された。

第三次調査では、第二次アンケート調査の中から、ボランティア活動に積極的であった８校が選ばれ、聞き取り調査にご協力をいただいた。本研究では、第一次調査と第二次調査の結果を踏まえつつ、第三次調査によって収集された質的なデータを中心に分析を行った。以下に分析の結果を５つの項目に分けて列記する。

研究の結果の分析

①　大学による独自の取り組みとその価値

本研究の調査を通して、積極的に学生の活動を支援しつつ、学校の特徴を生かした質の高い社会貢献（サービス）を行った大学が数多く見受けられた。深い関係性を持つ宗教ボランティア団体と全面的に協力した活動や、実践神学教育の一環として展開された活動、大学の心理学系の知識や保育系のノウハウが生かされた活動、また自由な校風がそのまま反映されたようなクリエイティブな活動等がその例として挙げられる。

②　参加人数の課題と限界

例に挙げられたように、多くの大学による素晴らしい震災ボランティア活動が展開されたことは事実だが、その活動に参加した学生の数は、残念ながら比較的少ないのではないかと感じられた。本研究では、第２次調査を通して、ボランティア活動に参加した学生の延べ人数が明らかにされた。震災のあった2011年の活動参加延べ人数が、大学の在籍学生数の３分の１に達した中規模校や、それが在籍学生数とほぼ同数であった小規模校も例外的に存在したが、ほとんどの場合、ボランティア活動に参加した学生の延べ人数は、在籍者数の数パーセント以内にとどまっている。また2015年度以降の活動の継続に関しても、今までと同じ規模で活動を継続するという返答のあった大学は約半数に留まっており、そこにも活動の限界が見られた。

③　活動内容の変化

大震災から６年が経過する中で、多くの大学の震災ボランティア活動の内容や規模は大きく変化しつつあり、本研究は、活動の動向調査という要素も持ち合わせる研究となった。例えば１年目に多かった物質的活動（炊き出しや清掃等）は、２年目以降、関係性の活動（イベント補助や学習補助等）に移行し、それと同時に、被災地域特有の必要により敏感になることや、個々の学生の持つ能力や特技との兼ね合い（擦り合わせ）に関する考察等がより重要度を増すようになっていったことが伺えた。この変化は、大学のボランティア活動計画や予算編成に大きな影響を及ぼすだけではなく、必要な人員の確保（例えば、教員アドバイザーや、対応のためのトレーニングを受けた職員の必要性）といった新たなニーズにつながるものであると推測される。加えて、震災ボランティア活動に参加する学生の人数も、多くの大学で時間の経過と共に減少傾向にあることが調査から明らかとなった。

④　情熱的な教職員の存在の重要性

インタビュー調査を担当した研究者にとって、研究を通して最も強く印象に残っているのは、学生のボランティア活動に対して情熱を持つ教職員、特に職員の存在である。そこにあったのは、学生のボランティア活動に関連する業務を、ただ淡々とこなすサラリーマンの姿ではなく、アドミニストレーションのプロフェッショナルとしてその職務を的確に遂行しつつも、被災者と学生の両者に目を向け、より良いボランティア活動のために真剣に悩み、汗を流し、共感し、笑顔を見せる情熱的な人間の姿であった。学生と共に労したボランティア活動から戻った後、キャンパスで学生から気軽に声をかけられるようになったり、また学生をボランティア活動中に付いたあだ名で呼ぶ親密な関係性になったりといった変化からも、その存在のポジティブな影響を感じることができた。

⑤　ボランティア活動の相互性とサービスラーニングの視点

ボランティア活動には、立場上、社会貢献（サービス）を受ける側と、サービスを提供する側が存在する。しかし学生の多くは、ボランティアとして現地に入り、そこにある様々なニーズに答え

るべく、ボランティアサービスを提供したが、被災者との出会いや、様々な貴重な体験を通して、重要なことを数多く学んでいる。ボランティア活動という枠組みは、そこに「確実」に存在するそのような相互作用を、ありがたい副産物として受け取ることはあっても、それを「前提」とした活動を展開することをしない。一方、サービスラーニングは、相互作用の存在を全面的に認め、それを織り込んだ活動を展開するのである。サービスラーニングという枠組みの中で現地に赴く者には、自分を「助ける者」「与える者」としてだけではなく、「学ぶ者」「受ける者」「助けられる者」としての視点が求められることになる。もしそうであるならば、サービスラーニングという枠組みは、ボランティア活動のそれよりも、より謙虚な態度を前提とした活動であると言うことが出来るかもしれない。そしてもしそうであるなら、(言い過ぎという批判を覚悟の上で述べれば、) サービスラーニングは、より仏教やキリスト教の価値観に近い活動であると言うこともできるかもしれない。

提　言

① 「建学の精神」に根ざしたサービスラーニングを導入する。

本研究は、その対象となった多くの大学によって、それぞれの特徴を活かした質の高い社会貢献(サービス) がなされたことを見出した。しかし大震災から６年が経過した今、約半数の大学は、その活動をこれまでと同規模では継続しないことを決めている。また非常に残念なことではあるが、確かに大震災の記憶は、多くの日本人の心の中から薄れゆきつつある。ボランティア活動は、基本的には人の善意に頼る働きであり、人の情熱に支えられている。忙しい日常の中に埋没する善意や、薄れゆく情熱を呼び覚ますのは容易なことではない。しかし研究者は、大学のボランティア活動を、「建学の精神」の理念としっかりと結びつけることこそが、困難な状況の中にあって、その活動を、大学にとっての本質的な営み、進むべき道、独自の選択として継続・推進させる力をもたらすことにつながるのではないかと考える。実際、見学の精神が学生や教職員によって理解されていると答えた大学の多くは、活動の継続を表明している。大学による社会貢献を、「建学の精神」によって裏打ちされたサービスラーニングという形にして導入することは、「有志」によるボランティア活動ではなく、それが大学全体の継続的プログラムの一部であるという、より強固な立場を有することにつながり、その運営が力強くサポートされることになるのではないかと確信する。

② 「宗教教育」としてのサービスラーニングを推進する。

宗教系学校におけるサービスラーニング・プログラムとは、どうあるべきであろうか。それはまず、提言の①にも記したように「建学の精神」に謳われている人材育成を推進する形で存在すべきであろう。キリスト教の例を用いてもう少し具体的に表現するならば、「地の塩」「世の光」「奉仕」「謙遜」といったキリスト教主義大学の「建学の精神」に見られる特徴的なキーワードを体現する人材の育成につながるべきだということである。米国でインタビューを行ったあるキリスト教系大学では、サービスラーニング・プログラムにとって非常に重要とされている、活動の自己評価のプロセスの中に、キリストによって示された隣人愛の模範との比較を組み込んでいる。サービスラーニングのオリエンテーションの中で、聖書に登場するキリストの隣人愛の模範を6つの場面からナラティブを用いて学び、プログラム終了時には、それらの6つのナラティブの中から1つを選び、そこに現れるキリストの姿と、サービスラーニング中の自らの姿を比較しての自己評価を記述することを課題としているという。またこの自己評価を行うのは、クリスチャンの学生だけではなく、すべての学生が対象となっていた。日本の宗教系学校においてもこのような取り組みは可能であり、また有益であろう。

③　世界観や価値観を共有する他大学と連携する。

多くの大学の活動の初期段階で最も大きな障害となったのは、実践的知識の不足であったが、それらは活動を継続する中で少しずつ解消され、経験知となって各大学に蓄積されていった。そのようなノウハウは、建学の精神に共通項を持つ大学の中で、さらには特に宗教系大学の間で共有されるべきであろう。ボランティア活動に関する実践的なノウハウを分かち合い、限られたリソースを有効に用い、また学校間の連携を図りつつ、ともに知恵を絞り、さらには互いに励まし合い、サポートしあうことができれば、それはボランティア活動のさらなる充実につながるであろう。また特に今後、サービスラーニング・プログラムの導入を実施する際には、そのような連携は必要不可欠なものとなる。

今後の展開

冒頭でも述べられているように、本日の発題は科研費研究基盤Cの一部として、特に宗教系大学の取り組みを念頭に置いてまとめられたものである。科研費研究の全体の取り組みとしては第２次アンケート調査データのクロスリファレンスを含めたより詳細な量的な分析や、サービスラーニングの導入を検討する大学へのより具体的な提言等が予定されている。今後、宗教系学校を中心に、真に宗教的なサービスラーニングの取り組みがすすめられていくことを願う。

参考文献

岡村直樹「キリスト教大学における震災ボランティア活動と宗教心の発達：ミッション系学校におけるサービスラーニングの観 点から」、東京基督教大学紀要、第２５号、2013年、25-41頁。

小山顕、岡村直樹「保育者育成教育におけるボランティア経験の意義と、その有用性に関する質的研究」キリスト教教育論集、第24号、2016年、29-46頁。

唐木清志「アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング」東信堂、2010年

倉本哲男「アメリカにおけるカリキュラムマネジメントの研究―サービス・ラーニング(Service-Learning) の視点から」ふくろう出版、2008年

桜井政成、津止正敏「ボランティア教育の新地平―サービスラーニングの原理と実践」ミネルヴァ書房、2009年

サラ・コナリー、マージット・ミサンギワッツ「関係性の学び方 -『学び』のコミュニティとサービスラーニング」晃洋書房、2010年

シェー土戸ポール「サービスラーニングの理論と実践」キリスト教大学の使命と課題、青山学院大学総合研究所キリスト教文化研究部編、教文館、2011年、254-271頁。東日本大震災復興学生ボランティア「大学生の参加経験に関するアンケート調査」概要：2011年8月~9月 いわてGINGA-NETプロジェクトにおける調査結果 2012年3月26日

Gorman, Margaret and Duffy, Joseph, and Heffernan,Margaret."Service Experience and The Moral Development of College Students, "Religious Education, Vol. 89 No 3 Summer 1994.

Kaye、Cathryn Berger. The Complete Guide to Service Learning: Proven, Practical Ways to Engage Students in Civic Responsibility, Academic Curriculum, & Social Action. Free Spirit Publishing、2010.

Patton, Michel Quinn. Qualitative Research and Evaluation Methods, Thousand Oaks, Sage Publications, Inc., 2002.

学生による授業評価アンケート
2016 年度実施記録

東京基督教大学
2016年度　学生による授業評価アンケート　実施記録

a．対象科目：専任教員担当科目は教員ごとに各学期に教務部が指定する1科目
　非常勤教員担当科目は全科目

b．回答期間：各学期、授業の最終週から期末試験終了の1週間後まで

c．回答方法：TCUオンライン

d．記名式：無記名（性別　学年　専攻のみ記入）

e．質問項目：

1．この授業では学習の目標が明確に示されていましたか？
　明確に示されていた　どちらかといえば示されていた　示されたかわからなかった
　どちらかといえば示されていなかった　示されていなかった

2．授業内容のレベル（難易度）はあなたにとって適切でしたか？
　難しすぎた　やや難しかった　ちょうど良かった　やや易しかった　易しすぎた

3．授業の速度はあなたにとって適切でしたか？
　速すぎた　やや速かった　ちょうど良かった　やや遅かった　遅すぎた

4．授業で課される課題の量はあなたにとって適切でしたか？
　多すぎた　やや多かった　ちょうど良かった　やや少なかった　少なすぎた

5．あなたは教員の熱意を感じましたか？
　強く感じた　どちらかといえば感じた　どちらとも言えない
　どちらかといえば感じなかった　感じなかった

6．シラバスを読みましたか？
　読んだ　だいたい読んだ　あまり読まなかった　読まなかった

7．シラバスを読んで科目の到達目標が理解できましたか？
　理解できた　だいたい理解できた　あまり理解できなかった　理解できなかった

8．シラバスを読んで成績基準が理解できましたか？
　理解できた　だいたい理解できた　あまり理解できなかった　理解できなかった

9．授業はシラバスに沿って行われましたか？
　沿っていた　だいたい沿っていた　あまり沿っていなかった　沿っていなかった

10．この科目を履修した動機は何ですか？（複数回答可）
　内容に興味があるから　単位を取りたいから　時間があったから
　将来に役立つから　既修者に勧められたから　必修だから　その他

11．授業中に積極的に質問や意見を発言しましたか？
　発言した　どちらかといえば発言した　どちらかといえば発言しなかった
　発言しなかった　発言する機会がなかった

12．この科目への興味・関心はどう変化しましたか?
　とても興味が湧いた　どちらかといえば興味が湧いた　変わらなかった
　どちらかといえば興味を失った　興味を失った

13．知識（スキルを含む）の幅を広げることができましたか？

できた　　どちらかといえばできた　　変わらなかった
どちらかといえばできなかった　　できなかった

14. 授業時間があっという間に過ぎるように感じましたか？
感じた　　どちらかといえば感じた　　どちらかといえば感じなかった　　感じなかった

15. この科目を学ぶために予習や復習に十分に時間をかけましたか？
かけた　　どちらかといえばかけた　　どちらかといえばかけなかった　　かけなかった

16. この科目は総合的に満足ですか？
とても満足　　やや満足　　やや不満　　とても不満

17. この授業を履修して良かったと感じる点をお書きください。(自由記述)

18. この授業をより魅力的にするために、具体的な改善策（環境、教材、課題等）を提案してください。
(自由記述)

(英語版)

1. Was the goal of the course clearly stated on the syllabus？
2. Was the level of difficulty of this course appropriate to you？
3. How was the pace of the course？
4. How was the requirement load of the course？
5. Were you able to feel the instructor's passion for teaching？
6. Did you read the syllabus？
7. Were you able to understand the specific goals and expected achievements of the course by reading the syllabus？
8. Were you able to understand the grading system by reading the syllabus？
9. Did the class progress according to the syllabus？
10. Why did you enlist in this course？
11. Did you actively participate in class discussions？
12. Did your interest in the course subject change as you took the class？
13. Were you able to increase your knowledge of the subject (Including skills)？
14. Did you feel that the classes flew on by fast？
15. Did you put time and effort into preparing and reviewing for the class？
16. Overall, do you feel satisfied in taking this course？
17. Please write what you felt were the good points of this class.
18. Please write suggestions on how to improve the class. Please provide concrete examples (Class environment, Lecture Materials, Assignments, etc.)

付　　録

東京基督教大学　2016 年度　第 1 回　Faculty Forum

紀要合評会

6 月 14 日(火)15：40-18：10

中教室5(教研棟 1 階)

議論を深めるため、論文をお読みいただきご参加くださると幸いです

調査報告

「パピルス 45 番
―最古の福音書集+使徒の働き」

"Papyrus 45: The Oldest Collection of Gospels and Acts"

発表者　　応答者

伊藤明生氏　×　小林高徳氏

主催：ファカルティ・ディベロップメント委員会

2016年度ファカルティ・ディベロップメント活動報告

2017年７月１日　発行

編集・発行　東京基督教大学
〒270-1347　千葉県印西市内野3-301-5
電　話（0476)46－1131
ＦＡＸ（0476)46－1405
http://www.tci.ac.jp/

印刷・キクラ印刷㈱
©東京基督教大学2017年